私の言葉

実にりっぱなマナー

山内清次（岐阜県協会会長）



昨年八月に高山市で全日本総合ハンドボール選手権大会を開きました。私たちは岐阜県協会はじめ高山市関係者はことしの岐阜国体の前しょう戦として、大いにハッスルして大会の運営に当たってきました。幸いにも非常に盛大であり、大会をご覧になった高松宮さまからご激励の言葉をいただいたほどです。高山市はご存じのように岐阜県の北部にあり、全国各地から参加した選手の方にはさぞかしお疲れだったことと思います。にもかかわらず好試合の連続で、関係者のひとりとしてこんなうれしいことはありません。

さて大会を顧りみていちばん感じたことは、ハンドボール選手のマナーが非常によかったことでした。私はいろいろなスポーツ大会を見てきましたが、〝ハンドボール選手がいちばんりっぱでした。私は岐阜県協会長としてこれ以上のうれしさはない。世の中に〝身びいき〟というコトワザがあるが、私はそうは感じません。マイナースポーツとしてスポーツ界から冷たい目で見られている現在、スポーツマンとしてプレー以上に大切なグラウンドマナーのよいことは、メジャー・スポーツの選手に対して大いに誇りとしていいと思う。その一例をあげると旅館でアップシューズをきちんとそろえ、食事の時間励行、就寝、起床時間の厳守、部屋のそうじなど屋内でのマナーのよいことは、高山市民の賞讃の的となっています。ハンドボールを通じて、高山市民はきっと「ハンドボールはいいスポーツ」と思ったことでしょう。これがハンドボールの底辺を広げるに大いに役立つことと思っています。また人間性の完成に努力しているハンドボール選手のまじめな態度には、高山市民を前にして「わが意を得たり」との感を深くしました。ことしの岐阜国体でハンドボール選手が、他のスポーツの模範になってくれることを希望しておきます。

昨年三月プラハの男子7人制世界選手権大会で、日本チームが「最も礼儀正しく、最も規律正しいチーム」として大会組織委員会から表彰されたことを知り、この受賞はまことに当然のことと思います。私が知る範囲では日本チームが世界選手権でこのような形で表彰されたことは例がない。それだけに日本チームの表彰は日本スポーツ界のためによかったと思う。日本協会の上層部の指導が実を結んだといっても過言ではない。ことしも数多くの国際試合があると聞いております。ことしもりっぱなマナーを外国チームに見せてやってもらいたい。

ハンドボール「第19号目次」

表紙写真――

関東女子学生リーグから



1965年の日本ハンドボール界はいそがしい。すでにご承知のように西ドイツで開かれる女子7人制世界選手権大会をはじめ、日ソ交流による日本男女両チームのソ連遠征、ソ連男女両チームの来日、日中交流による日本男子チームの中国遠征、西ドイツ男女両チームの来日など息を抜くひまがない。この間第20回国体(岐阜)、全日本総合選手権大会、全国高校選手権大会、全日本学生選手権大会、さらに海外遠征のための強化合宿などがある。そこでこれらの国際試合のプランをお知らせする。

女子7人制世界選手権大会

日本、参加を申し込む

参加8チーム、11月・西独

国際ハンドボール連盟(IHF)は昨年9月18、19日ブダペスト(ハンガリー)で総会を開き、1965年女子7人制世界選手権大会を西ドイツで開くことを決めた。IHFは西ドイツ協会と協議した結果、開催期日を11月後半の1週間とすることを正式に決め、参加加盟各国にこのむね通知した。参加申し込みは昨年12月31日まで。日本協会は12月9日に公文書で参加を申し込んだ。

開催国の西ドイツ協会は8チームの受け入れを決め、IHFもこれを承認した。したがって本大会は8チームによって優勝を争うことになる。8チームによる世界選手権大会の場合、出場チームの資格は昨年の総会の席上、次のように決まっている。

(1) 前回の世界選手権大会優勝チーム。

(2) 開催国チーム。

以上の二チームは予選なしで大会に参加できる。残りの6チームは各大陸ごとに予選を経て出場する。日本の場合はアジア大陸に所属し、韓国、イスラエル、シリアの三カ国と予選を行なうが、以上の三カ国が世界選手権大会に出場しない場合は日本がアジア地区代表として参加する。

試合方式については近くIHF技術委員会(委員長エミール・ホルル氏=スイス)で正式に決まるが、IHF総会で提出された案は次のようなものである。

▽第1次リーグ

4チームずつの2グループ分け、各グループでリーグ戦を行なう。一チーム3試合、1グループ6試合となる。

▽順位決定戦

第1次リーグのA、B、両グループの同順位チームが対戦して、1位から8位までの順位を決める。

▽日程

第1次リーグは一日おきに試合をやる。つまり第一日—休日—第2日—休日—第三日—休日となって6日間かかる。

順位決定戦は1日で4試合を行なう。各チームとも第1次リーグ、順位決定戦を合わせて4試合となる。

「参考」IHF加盟国の大陸別

ヨーロッパ地区	21
アフリカ地区	5
アメリカ地区	4
アジア地区	4
オーストラリア地区	0

かなりきつい合宿日程

11月に西ドイツで女子7人制世界選手権大会が開かれる。日本協会ではこの大会参加を目ざしてすでに準備段階にはいった。いまの計画だと2月から第1次合宿にはいるが、この合宿には全国の女子実業団チームから30人ないし40人の選手を集める。

体・力の強化が第一

(1) この第1次合宿では主として「からだづくり」、「力づくり」をやり、このうちから20人ぐらいを第2次合宿に参加させる。つまり第1次合宿で基本的に力のないものをふるい落とす。これは日本チームの戦力(戦術、技術、得点力)はヨーロッパチームに比べて少しも劣っていないが、"体"、"力"がない。この"体"、"力"の養成、強化が第1次合宿のねらいである。わかりやすく言えば、腹筋力、背筋力、腕力の強化であ

る。早い話が、スローオフからタイムアップまで走り抜ける選手、シュート力の強い選手、大きなからだのヨーロッパ選手に押されても倒れない選手、ディフェンスのさい、ヨーロッパの大柄選手に堂々と立ち向かっていける選手などを発見するわけ。この「からだづくり」「力づくり」はかなりきびしいと思われる。

ディフェンスの強化

(2) 第1次合宿から選抜された20人は第2次合宿にはいる。この合宿では主としてディフェンスの強化練習である。日本の攻撃力は前回の世界選手権第4位にランクされている。しかしディフェンスは参加国の最下位。そこでこのディフェンスを初歩からやり直す。これがいちばんむずかしい。またいちばん大事とされている合宿である。

ロングシューターの養成

(3) ディフェンスの強化練習が終わると、ロングシューター、ポストプレーの強化に移る。ＦＰの全員がロングを打ち、ポストプレーができるようにする。これは理想である。そこでロングシューター、ポストプレーの二つに分けて強化練習にはいる。欲をいえばロングシューターは4人必要だが、日本の現状から見て3人。ポストプレー3人。これは特定の人にやらせる方針。他の選手はその人の技能に応じてロング、ポストプレーにふり向ける。

コンビネーション・プレー

(4) 最後の合宿でコンビネーション・プレーおよび戦術にはいる。コンビネーション・プレーは選手自身がよく知っているが、合宿した選手の技能、技術を考えてコンビを編成していく。さらに戦術面にはいる。この戦術とは

(A) 走る戦術
(B) ボールを投げる戦術
(C) ディフェンスの戦術
(D) オフェンスの戦術
(E) チーム全体の戦術

以上五つの戦術について指導することになっている。このほかの強化もはかる。

6月にソ連遠征

強化合宿は5～6回にわたって行なう方針であり。最終段階で全日本選抜チーム、つまりナショナルチームを編成して合宿を終わる。このナショナルチームは6月ないし7月にソ連へ遠征し、ソ連のラフプレーを身につける。そして世界選手権大会の一ヵ月前にヨーロッパに乗り込み、最後の強化合宿をやりながら親善試合を行なう。したがって今回の合宿は選手にとってかなりきついものであり、自信を持ってやらないと落伍者が出ると予想される。

× × ×

五輪種目採用を要請
IOCに決議文

国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）は昨年9月ブタペストで開かれた総会でハンドボールのオリンピック種目の採用について協議した°次の第19回オリンピックは1968年メキシコで開かれるが、メキシコではハンドボールが知られていない点から採用されないという見通しをつけ、「1972年の第20回大会がヨーロッパで開かれるときにハンドボールを正式種目として採用してほしい」との決議を行ない、国際オリンピック委員会（ＩＯＣ）に決議文を送った。

「決議文」国際ハンドボール連盟は1964年9月18、19日にブタペストで総会を開き、ハンドボールのオリンピック正式種目について協議した。このことはすでに東京オリンピック大会が開かれる前日に、ハンドボールがオリンピック種目に採用されることを要望した。ハンドボールは4大陸に普及し、その半数以上の国でハンドボールがアマチュア・スポーツとして実施されている。ハンドボールの人口は200万人を越えている。この数字がわれわれの要求をじゅうぶん正当化するものである。世界におけるハンドボールの非常な普及という点から見て、世界スポーツの最大の祭典からハンドボールが不当に遠ざけられていることは全く遺憾である。ここに国際オリンピック委員会対し、基本的にハンドボールの問題を再検討してもらいたい。1972年の第20回大会にはハンドールを正式種目として採用することを要望する。

この決議文は東京で開かれた第62回国際オリンピック委員会総会のとき、各委員に手渡されている。また国際ハンドボール連盟総会に出席した各国代表は帰国後に自分の国のＩＯＣ委員に対して、1972年大会にハンドボールを正式種目として採用するよう、強く要請することも決めた。

☆★ 海外通信 ★☆

三国がＩＨＦ加盟

新たにアルジェリア、ダホメ、マリのアフリカの新興三ケ国が、ＩＨＦ九月の総会で加盟が承認された。

ルーマニア女子、三冠王に

第4回ヨーロッパ・カップ女子トーナメント室内はチェコで開かれ、各国の実力伯仲で接戦が続いた。前回優勝のツルド・モスクワ（ソ連）は二回戦で姿を消し、決勝はラピッド・ブカレスト（ルーマニア）とヘルジンガー（デンマーク）の間で行われ、ラピッドが初の優勝をとげた。これでルーマニアは女子の三大タイトル（11人制、室内、当大会）を独占したことになる

▽準決勝（二回戦制）

ヘルジンガー（デンマーク）対ＥＴＶハンブルグ（西独）
1回戦6－7、2回戦8－2
総合得点14－9でヘルジンガーの勝ち。

ラピッド・ブカレスト（ルーマニア）対スパルタカス・ブタペスト（ハンガリー）
1回戦13－5、2回戦7－11
総合得点20－16でラピッドの勝ち。

▽決勝（一試合）

ラピッド 14（9－9 5－4）13 ヘルジンガー

タ杯はユーゴに

恒例のタスマンジョン・カップ争奪国際女子対抗戦は6月ベルグラードなどで行なわれた。この大会で三冠国のルーマニアがチェコとユーゴに敗れ、最下位という大波乱があった。

4月に男子チームが中国に

本誌18号でお知らせしたように、中国（中国大陸を指す）は東京オリンピック前に日中文化交流協会を通じて「ハンドボールの日中交流をやりたい」と申し入れてきた。このため日本協会は中国体育総会（日本の体育協会にあたる、日中文化交流協会に「男女両チームを中国に遠征させたい」むね公文書で申し入れた。その後中国側は日中文化交流協会を通じて「日本の男子チームのみを受け入れたい」と回答してきた。（中国の女子はまだ国際試合をやるだけの力がないと解される）。日本協会は中国側の回答がきたので、日中文化交流協会を通じて「日本の男子チームは1965年4月中旬に中国へ遠征させる。選手団は20人」と正式に返事を出した。これで日中交流は正式にまとまった。

ところが相互交流の原則から、「11月に中国チームを日本に招待したい」と申し入れたところ、中国側は「1965年11月の日本遠征はむずかしい。これはすでに1965年のスケジュールが決まっているためである」と返事がきた。また相互交流を毎年実施するか、一年おきにするかは中国へ遠征したとき決めることになった。

なおIHF（国際ハンドボール連盟）は「非加盟国の中国との国際試合を承認する」と。1月29日に日本協会へ連絡してきた。

6月にはソ連へ男女チーム

東京オリンピック終了後に、ソ連関係者から「日本とスポーツ交流を実施したい」と日本体育協会に要請してきた。そこでJOC(日本オリンピック委員会）が窓口となって各競技団体と連絡をとり、ことし2月末までにソ連と正式に契約する運びとなった。

日本協会では高島理事長がオリンピック開催中にソ連関係者と会って協議した。ソ連側は「ぜひハンドボールと交流したい」との意向を表明、合わせてハンドボールがオリンピック種目になるよう協力することを申し合わせた。日本側としてはことし6月か7月ごろに男女チーム（合計25人）をソ連へ遠征させる計画で準備を進め、このことはすでにソ連へ申し入れた。出発は横浜または新潟から船でナホトカ経由モスクワに向かう。ソ連からも男女チーム（合計25人）が来日する。

この交流計画は毎年実施するか、一年ごとにするかは、第1回の日ソ交流の結果を見て決めることになっている。

秋には西独チーム来日…

西ドイツの男女チーム（選手団25人）は9月から10月にかけて来日、3週間滞在する。これは東京オリンピック終了後の10月29日に西ドイツ体協のペライ氏（ドイツ統一陸上五輪チーム監督）と日本協会の高島理事長との話し合いが正式に決まったもの。3週間滞在して10試合行なう。なお西ドイツチームの来日は32年の男子チームに次いで二度目。

◎◎◎ 海外スコープ ◎◎◎

5年後が楽しみ

アラブ連合

アラブ連合（エジプト）の競技人口（登録選手）は男子一、一〇〇人、女子五〇〇人。国内で五万人ぐらいの人がハンドボールを知っている。アラブ連合にハンドボールを紹介したのは、現在エジプトハンドボール協会のモハメド・M・ファダリ会長。1941年に11人制、次いで1948年に7人制を取り入れた。同会長は1948年にスウェーデンハンドボールを視察に行ったとき、初めて7人制ハンドボールを見た。これをきっかけとして7人制の普及にのり出し、現在では日本と同じように11人制を廃止して7人制1本になった。

ハンドボール協会が設立されたのは1947年で、国際ハンドボール連盟に加盟したのが1960年である。国際試合は昨年3月の第5回男子7人制世界選手権大会をはじめ、ユーゴ、ルーマニア、西ドイツ、フランスと対戦。またアフリカ各国のチャンピオンチームで開くアラブ大会にも出場している。フランス戦はアフリカのダカールで行ない、フランスのクラブチームに勝っている。

△決勝リーグ

ユーゴ	13―6	チェコ
ハンガリー	7（分）7	ルーマニア
ハンガリー	7―6	ユーゴ
チェコ	8―5	ルーマニア
ハンガリー	5（分）5	チェコ
ユーゴ	6―4	ルーマニア

（順位）①ユーゴ2勝1敗②ハンガリー1勝2分③チェコ1勝1敗1分④ルーマニア1分2敗

アイスランドが優勝

スカンジナビア女子選手権はレイクジャビックで行なわれ、アイスランドが優勝。以下ノルウェー、デンマーク、スウェーデン、フィンランドの順となった。

チェコ、ザ杯で優勝

昨春の世界室内選手権後、初の国際公式大会として恒例のザグレ・カップリーグ（男子・室内）が6月ザグレブに4カ国が参加して行なわれ、チェコが予想どおり優勝した。

△リーグ戦

チェコ	14―9	ポーランド
ユーゴ	20―15	ハンガリー
チェコ	24―11	ハンガリー
ユーゴ	29―11	ポーランド
ハンガリー	28―15	ポーランド
チェコ	18―12	ユーゴ

（順位）①チェコ3戦全勝②ユーゴ2勝1敗③ハンガリー1勝2敗④ポーランド3敗

11人制でドイツ強し

国際連盟広報に掲載された最

世界の競技人口は154万人

チームはソ連の2万チームが最高

国際ハンドボール連盟は1964年9月1日現在の競技人口を発表した。

	チーム数			競技人口		
	男子	女子	ジュニア	男子	女子	ジュニア
東ドイツ	2,030	950	3,000	30,500	14,000	43,000
西ドイツ	15,087	2,675	11,770	225,700	40,660	192,600
∠アルゼチンン	25	—	10	538	—	192
オーストリア	229	51	175	4,719	889	3,432
ベルギー	91	—	—	1,523	—	—
△ブラジル	9	—	—	165	—	—
カナダ	29	11	26	360	120	320
△韓国	—	—	—	—	—	—
△象牙海岸	—	—	—	—	—	—
デンマーク	2,009	1,127	4,723	22,105	12,404	51,956
アラブ連合	96	42	66	1,800	820	1,200
スペイン	386	92	1,296	6,176	1,626	18,052
米国	—	—	—	—	—	—
フィンランド	58	32	68	920	650	1,580
フランス	2,078	234	—	23,058	2,374	—
ハンガリー	922	701	535	24,595	15,721	12,770
アイスランド	25	20	70	400	300	14,000
イスラエル	42	8	35	1,200	160	1,050
日本	1,005	395	450	43,550	10,960	17,530
△ルクセンブルグ	8	—	8	132	—	111
モロッコ	36	2	40	720	30	1,000
ノルウェー	400	50	100	16,000	550	3,450
オランダ	450	580	1,347	8,943	9,086	19,444
ポーランド	405	390	310	13,000	4,000	7,000
ポルトガル	117	—	72	2,976	—	764
ルーマニア	615	504	842	11,232	9,720	19,715
セネガル	14	3	11	680	100	540
スウェーデン	2,100	900	550	24,000	8,500	9,000
スイス	1,320	—	960	19,400	—	11,000
△シリア	—	—	—	—	—	—
チェコ	595	109	133	23,647	9,078	13,929
チュニス	68	8	54	1,150	120	1,400
ソ連	8,580	1,400	10,350	171,610	21,000	186,000
ユーゴ	1,943	897	—	64,428	14,319	—
計	40,772	11,181	37,001	745,317	177,187	618,835

チーム合計　88,954　　競技人口　1,540,549

（注）① △印は資料未着　または1962年の資料によるもの
② この数字には組合、軍隊を含んでいない。

モハメド・M・ファダリ会長の話　アラブ連合では1年ごとに競技人口が増えている。とくに中学校での普及は上昇カーブを描いており、5年後にはたいへんな競技人口になると思っている。プラハの世界選手権のとき、日本チームと練習試合をやったが。とても強い。やがてはベスト8にはいると思う。アラブ連合も日本に負けないチームをつくり、ぜひ日本へ遠征したい。日本遠征をたのしみにしている。

私はアラブ連合オリンピック委員会（NOC）の委員をやっている。ハンドボールをオリンピック種目になるよう努力したが、東京大会ではオミットされた。非常にいいスポーツなので、次のメキシコ大会に望みをかけている。国際オリンピック委員会（IOC）は年寄り連中多く、ハンドボールをよく知らない。こんなポピュラーなスポーツが、どうして正式種目にならないのか不思議だ。私は正式種目になるようにこれからも大いに努力する。（ファダリ会長から取材したもの）

11人制に未練残す

東ドイツ

東ドイツでは11人制専門の選手が10万人いるが、このうち1万人は11人制の選手としてプレーしている。7人制をやっている選手のプレーをよく見ると、いずれも11人制のプレーをやっている。あくまで11人制が主力である。それはスポーツは広いグラウンドで太陽の下でプレーするものという考え方からだ。いまの世界情勢では11人制が少なく、7人制が多い。東ドイツではこれから10年間は11人制が続くだろう。やがては7人制1本化に進むと思うが、東ドイツはハンドボールの発祥の地であり、ハンドボールは11人制からスタートしている。だから11人制への未練はある。しかし7人制の時流には勝てないだろう。

プラハの男子7人制世界選手権大会は1勝1敗1引き分けでA組の3位になった。このときは選手の交代期であったから弱かった。若い選手は経験不足、年寄りは体力的に限界がきていた。だが2〜3年すると東ドイツはかなり強くなり、やがては7人制の王座を獲得すると思う。次の7人制世界選手権が実に楽しみである。東ドイツでさかんなスポーツはサッカー、次いで釣り、三番目にハンドボールだ。5年にはハンドボールで優秀な選手がきっと出る。私はそう確信している。（東ドイツのドイツスポーツ新聞のヘインツ・アプラハム記者から取材したもの）

近の国際試合の記録次のとおり

△11人制男子

西ドイツ	25	(11−7, 14−9)	16	スイス
西ドイツ	23	(10−13, 13−10)	23	オーストリア
西ドイツ	27	(15−6, 12−5)	11	オランダ
東ドイツ	26	(13−8, 13−4)	12	オーストリア
東ドイツ	22	(14−5, 8−2)	7	ポーランド

親善に役立った日本遠征



ステラ・スポーツ監督
フェルナンド・ザゲル

昨年6月に来日したフランスチーム（ステラ・スポーツクラブ）のザゲル監督は、このほど日本遠征の印象記を日本協会に送ってきた。なお同監督はこのほどナショナル・チームの監督に就任した。この印象記の中で「われわれはフランスのナショナルチームとして公式に認められていなかったが、フランスを代表する選手としてその役割りをじゅうぶん果たし、それを日本のハンドボールファンが認めてくれたことは大きな喜びでした」と書いてある。

楽しかった日本遠征

昨年のフランスチームの日本遠征は日本―フランスのハンドボール親善に大いに役立ち、遠征を無事終了したことに感謝しています。学校の先生が生徒にやさしく教えるように、日本ハンドボール界の諸兄諸姉が日本を知らない私たちフランスチームのためによくお世話してくださった。私たちは少しも不安がなく、楽しく、そして思う存分プレーできました。いまの私は日本のすべてを知ることができました。物質面ばかりでなく、精神面にもいろいろとお世話してくださったことに深い感謝を捧げます。伝統的な日本のよさばかりでなく、現代の日本を知ることができたのはなによりもの収穫でした。日本に着いていちばん困ったことは、日本特有のむし暑さ、時間と環境の変化に順応できるかどうかということでした。羽田到着後の1週間は疲労のため苦しかった。全芝浦工大との第1戦はなんとか持ちこたえたが、思うようなプレーができなかった。しかし徐々にピッチをあげ、コンディションも正常に戻り、スケジュールにしたがって楽しい毎日が続きました。試合会場は完全に整備され、申しぶんなかった。有能な通訳がいたので、競技の運行について少しも困らなかった。各地の開会式もりっぱだった。日本へ着いたとき、日本対フランス国際ハンドボール大会と発表されているのを聞いてびっくりした。それに少々気がねした。私たちはフランス・ナショナルチームとして公式に認められていないが、フランスを代表する選手としての役割りをじゅうぶん果たした。それを日本のハンドボールファンが認めてくれたことは大きな喜びであった。日本のハンドボールファンがスポーツ精神と競技に対する理解が高かったことに敬意を表します。

狭すぎたコート

会場の広さについて日本とフランスとを比較することが必要である。日本は国際ルールに基いての広さを取っている。この広さの大きいのに驚き、そして不愉快だった。なぜ不愉快だったか。フランスではどこへ行ってもこの広さのコートはないし、狭いコートで試合し、それになれているからだ。コートの大きさが競技の内容を決定づけることは明らかであり、私たちは国際ルールの大きさに対するプレーができておらず、最初のうちはミスの連続だった。最大の大きさは反撃の場合に有利だが、私は最大の大きさがかならずしも競技内容に役立つものとは思わない。現在のハンドボールの水準では、中盤でのゲームがないから最大の大きさを取る必要はない。

すばらしい個人技

日本のプレーは技術面でも、見せるスポーツとしての面でも非常によい印象を受けた。基本がしっかりしており、パス、シュートなど個々の技術もすぐれている。選手全体のチームワークもいい。プレーの速度、マークの質、フェイントプレー、脚力も個々の点から見れば、ヨーロッパ選手よりも確かにすぐれている。私たちが対戦した日本のチームはナショナルチームではなく、クラブチームである。このクラブチームのレベルでは国際水準に追いついていけない。というのはナショナルチームの特色は身長とシュート力にある。スカンジナビア・チームの平均身長は190センチ以上もあり、その全選手がフランスのいちばん背の高い選手よりもはるかに高い。身長差、体格差は最初から大きなハンディキャップとなっている。バスケットボールの選手と同じように背の高い方が有利である。体格があれば力があるし、シュート力も強い。

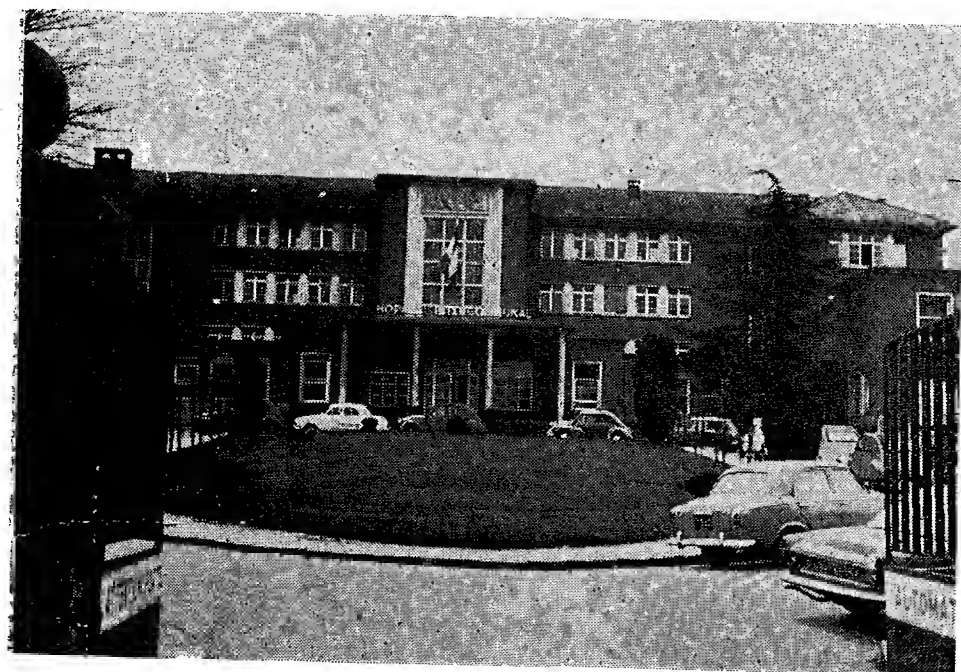
ほしい臨機応変の防御

日本では対戦したどのチームも多かれ少なかれクロス攻撃を取り入れていた。クロスプレーを連続的に繰り返して攻め、6メートルラインまでボールを持って行く戦法である。このクロスプレーは相手のディフェンスをくずし、ゴール真っ正面の位置にボールを導くためである。この攻撃法は守備側がロングシュートを警戒しているときにはきわめて有効である。だが防御側が前に出ず、6メートルラインいっぱいの地点で最大限のブロックディフェンスをやったときには少しも通用しない。こうなれば攻撃側はロングシュートを打つしかない。日本のクロスプレー、フェイントプレーを封じるには、前に出ず、一線防御をやればいい。

ところが大崎電気との試合では、私たちは完全に大崎電気のペースにはまってしまった。大崎電気の選手は早いクロスプレー、早いモーションのフェイントプレーをやるので、私たちはしばしばボールを見失ってしまった。そしてディフェンスが乱れてしまった。フランスの選手はやむなくボール保持者をアタックする方をとった。そして6メートルラインをあけてしまい、得点された。

とにかく大崎電気チームはりっぱなチームだ。昨年2月から3月にかけてフランスに遠征にきたチームが、大崎電気が主力だったことを聞いてびっくりした。日本チームはますます強くなる。大いにがんばってください。さよなら。

欧州遠征日誌から（下）



フランス

3月16日再びパリにやって来た。宿泊先はオセアン・ホテル。やはり自由の国はいい。約2週間チェコにいたから、フランスのよさがよけい感じる。17日サンモールでステラ・スポーツと対戦した。先発メンバーのGK尾形が強いシュートを右眼に受けて転倒した。出血が激しく、すぐ手当てしたあとクレテイユ病院に入院した。試合は23—25で敗けたが、尾形の病状が気がかり。レセプションも早めに切り上げて病院へ……。選手たちをバスの中で待たせ、役員だけが尾形を見舞った。黒い遮弊幕で病室を暗くし、尾形は黒いサングラスをかけて絶対安静。眼底出血が激しく、3〜4日しないと症状がよくわからないという。〝網膜はく離〟にならなければいいが…と念じながら片瀬マネジャーを付き添いとして残し、ホテルへ戻った、18日はディジョン行き。鉄道ストのためバスで約5時間かかるという。途中尾形を見舞った。病状はまだわからない。出血を止めるため、絶対安静とのこと。片瀬マネジャーご苦労さんです。一行16人はディジョンへ……。22—17で勝った。ディジョンに一泊してパリに戻る。尾形の入院についで片瀬マネジャーはもちろん、河内夫妻、塚原君、フランス大使館、ステラ・スポーツクラブ、フランス協会のみなさんが協力してくれた。フランス駐在萩原大使主催の夕食会が19日午後6時30分から大使公邸で開かれた。尾形を除く17人が出席、サシミ、新香、カレーライスなどの料理に舌づつみを打ち、8時すぎ散会した。同夜カジノ・ド・パリ観劇の予定だったが、尾形入院のため中止した。

入院に関する一切の費用をフランス協会、ステラ・スポーツクラブで面倒をみることになった。尾形の入院は2〜3週間という。片瀬マネジャーに残留してもらうことに決まった。選手団一行16人は尾形の全快を祈りつつ、20日午前10時30分オルリー空港発イスラエルに向かった。

カット写真は尾形君が入院したパリ郊外のクレテイユ病院

イスラエル

オルリー空港を出発、ローマ経由でテラビブ空港に着いた。サバクの真ん中にこんもりと繁った緑の国。それがイスラエルである。空港にはジンガー理事長が迎えに出ていた。二週間前はパルドビッチで零下15度の寒さにふるえ上がったが、ここイスラエルは初夏。夏の太陽がまぶしい。強烈な太陽、白い雲、青い空、緑のオレンジ畑。白いビルディング…見事なコントラスト。実にロマンチックな国である。テラビブ空港からバスで30分、マカビー村にあるマカビー・ホテルに到着。このホテルには世界から母国を訪れるイスラエル人の観光客でいっぱい。ホテルの設備はどこよりもよかった。21日夜イスラエル・ナショナルチームと対戦し、20—16で勝った。イスラエル協会は「日本チームがわざわざ訪れてくれた。こんなうれしいことはない。心から歓迎する」と好意を示してくれた。23日夜、レホボットでナショナルチームと練習マッチ。11—13と2点差でイスラエルに勝ちを譲った。試合終了後、マカビー・ホテルの大食堂で両チーム合同のレセプション。イスラエル協会から日本チーム全員に贈り物があり、日本も渡辺団長からイスラエル協会にプレゼントした。

22日午前はエルサレムへ行き、午後1時からイスラエル駐在服部大使主催の昼食会が大使公邸で開かれた。大使夫妻、お嬢さんの保子さんが、日本チームのために大いに歓待してくれた。23日はイスラエル北部のハイファ市、それにキリスト生誕の地であるナザレを見学した。

24日午後3時バスでテラビブ空港へ。同4時30分テラビブ発帰国の途についた。

× × ×

技術研究室

必要な柔軟性・敏捷性
要求されるリズムと力

日本協会常務理事　若崎重富

ハンドボール・からだづくり（続き）

日本人独特のプレー

鷲尾氏が指摘しているように「日本がヨーロッパの選手をリードするものは細かく早い動きだ。ヨーロッパの選手はからだが柔かいので自由自在にからだが動き、プレーが連絡してでる」と言っている。どのようなスポーツにおいても、からだの柔軟性と敏捷性は絶対に欠くことのできない要素である。しかし現在のハンドボールの選手は実にからだが堅い。これは準備体操や柔軟体操の不足からきているのである。とくに球技をやる人は柔軟体操や徒手体操が苦手である。平常の練習や合宿でも表面的な技術に走り、からだづくりをおろそかにする傾向がある。

「日本独特のプレー」とは日本人の身体の形態、機能、性格に応じたプレーという意味である。ねばり強さ、機敏さ、判断力を向上させ、これをじゅうぶんに活用することである。

柔軟性とは屈筋に対して伸筋がよく伸びることと、運動にさいして各方面に柔かく曲げたり伸ばしたりできる能力をいう。そのためには筋肉の伸展性を増し、脊柱の弾性、腰の関節、股関節、肩の関節などの可動領域を大きくするようにしなければならない。柔軟性を養うには次のような運動がいい。

1　柔軟体操
2　マット運動
3　特殊な補強運動

ここで注意しなければならないのは、単にからだが柔かいというだけではスポーツをやる人には役立たない。からだが柔かい上にリズミカルな働きと力とが必要である。関節の可動領域を大きくするためには回転前屈、後屈、股関節の伸展、回転運動などを多く行なうことである。敏捷性を養うにはレペティション・トレーニングがよい。この原理は、

1　最大の努力をもって運動を行なう。
2　次の運動との間の休息は5～8分間とり、疲労が回復してから行なう。
3　最初に発揮した能力から甚しく低下しない範囲で繰り返して行なう。（初心者は5～8回・鍛練された選手は10回前後）

外国選手との交流

世界の強豪がヨーロッパにそろっているのだから、ヨーロッパ各国は非常に恵まれている。外国チームとの交流は日本体協の規定で一年間に海外遠征が1回、国内試合1回が許されている。われわれはいかなる障害を打ち越えても、この少ない機会をじゅうぶんに活用しなければならない。優秀な選手を国外に出して大いに技術を習得してくるのもよいが、国内に外国選手を呼び、少ない負担で数多くの選手が国際試合の経験をすることも日本のハンドボールの向上には役立つ。この問題は日本のハンドボールを愛好する者全員が協力して推進していかなければならない問題である。そのためには地方協会が近代感覚によって運営され、さらに発展し、とくに財源の確保と選手の養成、さらには潜在力を強力に養うように努力すべきである。（この項おわり）

×　×　×

海外短信

▽…バマコ（アフリカ）ではマリ・ハンドボール協会が1962年5月に設立され、現在国際ハンドボール連盟に加盟を申請している。7人制で選手は600人。

▽…サウジアラビアは1964年2月に協会を設立した。第1級チーム18、第2級チーム25、ジュニアチーム18。いずれも7人制。

▽…シカゴ（米国）のスポーツ学校教師のローレンス・グレー氏は、ハンドボールの競技規則書、解説書がほしいと国際ハンドボール連盟に連絡してきた。またコンゴ（アフリカ）からも同様のことを国際ハンドボール連盟に問い合わせてきた。

▽…ブルガリアが加盟を申請してきた。同国は1958年に協会を設立している。

▽イスラエルでは1965年8月にテラビブ近郊のマカビー大会を開くが、国際ハンドボール連盟の同意を得てハンドボールを競技種目として採用した。

▽…リビアはハンドボール協会の設立を決めた。

男女とも 大崎電気優勝

女子は実業団がベスト8を独占



大崎電気—日体大クの試合から

第16回全日本総合選手権大会は8月23日から5日間、岐阜県高山市に新設された市営ハンドボール場で行なわれた。男子は全国の予選勝者32、女子は20チームが参加。40年秋に国体開催を控えた地元の盛んな声援で、大会は連日盛り上ったふん囲気の中で進められた。その結果、男子は大崎電気（東京）が2年ぶり2回目、女子も大崎電気が初優勝した。この大会で、男女同一チームによる優勝は初めて。

男子の部

▽一回戦

芝浦工大（協会推薦）35（18—10、17—4）14 広島商大（広島）
全立大（東京）21（15—1、6—9）10 住友化学（愛媛）
東北学院大（宮城）23（12—9、6—9、5—2）20 岐阜大（岐阜）
教大（東京）30（18—6、12—7）13 本田技研（三重）
G・T・C（岐阜）24（12—8、12—7）15 丸善石油（大阪）
桜丘会（愛知）20（8—9、12—9）18 明大（東京）
全桃山大（大阪）17（12—7、5—7）14 仙台一高（宮城）
日体大ク（東京）27（16—9、11—6）15 京大（京都）
法大（東京）23（14—8、9—8）16 中京大（愛知）
足利球友会（栃木）19（9—5、10—3）8 加納高（岐阜）
中大（東京）18（10—7、8—9）16 日野自動車（静岡）
常盤工業（岐阜）23（9—8、14—7）15 日本鋼管（神奈川）
早大（東京）38（17—10、21—6）16 大分教員ク（大分）
関学（兵庫）42（25—6、17—5）11 法友ク（東京）
全同大（京都）23（9—9、14—10）19 清商ク（静岡）
大崎電気（協会推薦）34（18—1、16—6）7 大阪経大（大阪）

〔評〕 大きな番狂わせはなかった。全立大（前年優勝メンバー）は前半、住友化学のセットオフェンスに悩まされたが、後半は相手の攻撃を封じる一方、連続14点奪取という攻撃で貫録を示した。このほか仙台一高の善戦と、東北学院大—岐阜大、法大—中京大の現役学生同士のカードがよかった。

▽二回戦

全立大 40（18—4、22—0）4 足利球友会
大崎電気 40（25—8、15—5）13 中大
桜丘会 25（15—12、10—12）24 全桃山大
G・T・C 20（9—4、11—10）14 東北学院大
早大 19（9—5、10—7）12 常盤工業
関学 28（14—10、14—7）17 全同大
日体大ク 32（18—7、14—9）16 法大
芝浦工大 25（12—10、13—6）16 教大

〔評〕 全同大が姿を消した。関学は籔田と飯端が好調で、この二人が14点を叩き出した。全同大は立ち上がり、攻撃が単調で、15分に早くも7—1と離されてしまい。反撃らしいものも見せず敗退してしまった。桜丘会—全桃山は後半7分、17—11と全桃山がリードしたときはそのまま勝負が決まるに見えたが、桜丘会はその後の10分間に9点を入れるという見事な反撃で逆転した。全桃山は残り1分間に2点を返したものの及ばず、桜丘会の驚異的な粘りに屈し

た。

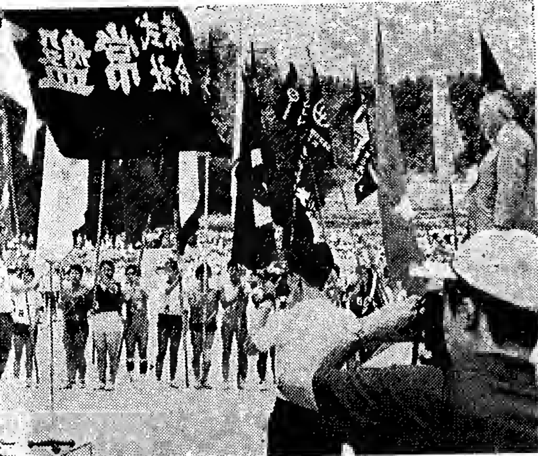
▽準々決勝

全立大 38（17―9、21―12）21 桜丘会

〔評〕 新（芝浦工大出）を欠いた桜丘会は、ベテランの巧技にたよるだけで決め手がなかった。全立大は中根の好配球を安達、江名、木野のトリ方が多彩に打ち分けて快勝した（村田主審）

関学 16（9―3、7―7）10 芝浦工大

〔評〕 先取点をとった関学は11分には5―1と開き、その後も自巳のペースでゲームを進めた。芝浦工大は縦の切り込みが、せまいコートのため生かせず、シュートにも鋭さを欠いてしまった。（岡村主審）



開会式の選手宣誓

大崎電気 29（14―3、15―2）5 G・T・C

〔評〕 地元の期待を一身に受けたGTCだったが、大崎の総合力に完敗した。なおこの日は荒天のため、30メートルの室内コートに移されたため、各チームとも実力をぞんぶんに発揮出来なかった。（奥村主審）

日体大ク 25（10―6、15―7）13 早大

〔評〕 若さを誇る早大の試合ぶりが期待されたが、日体大クはうまみのある攻防で早大に完勝した。早大はすべり出しは互角だったが、時間の経過とともに日体大クのOBらしいテクニックに押され気味となった。得点差の割に充実感のある好試合。（松本主審）

▽準決勝

全立大 23（16―6、7―8）14 関学

「主審」松本（教大出）

位置	【関学】	点	【立教】	点
FP	大西	3	江名	9
FP	籔田	5	安達	3
FP	森末	2	中根	5
FP	飯端	2	斎藤	1
FP	石井	2	木野	5
FP	宮本	0	松本	0
FP	葛西	0	藤城	0
FP	高須	0	伊東	0
FP	矢本	0	北田	0
GK	中山	0	尾形	0
GK	石田	0	谷川	0

23 (3) 7MT (3) 14

〔評〕 全立大の安達、江名、中根のトリオの好プレーが印象に残った。安達のロングシュート、江名の鋭い突進力、中根のサイド攻撃がそれである。関学ディフェンスの詰めの甘さが前半の10点差を生んだといっていい。木野もよくやった。この三人のかげにかくれてあまり目だたないが、全立大勝利の一因ともなっていた。尾形のファインプレーもしばしば見られ、ヨーロッパ遠征の成果があがったといってもいい。関学はスピードに欠けていた。もう少しスピードをつけたら、かなりいいチームになろう。大西、籔田、飯端の好プレーは全立大にヒケをとらなかった。サイド攻撃を研究すべきだと思う。

大崎電気 19（7―9、12―5）14 日体大ク

「主審」岡村（教大出）

位置	【大崎】	点	【日体】	点
FP	田口	0	井上	4
FP	小谷内	3	青木	4
FP	北村	3	小林	1
FP	金田	2	蓮井	2
FP	井上	5	藤原	3
FP	竹野	6	三友	0
FP	坂野	0	結城	0
FP	宮原宏	0	山口	0
FP	餅原	0	東	0
GK	福本	0	島崎	0
GK			高橋	0

14 (3) 7MT (0) 19

〔評〕 大崎電気の勝因ひとつに小谷内の起用が成功したことにある。宮原藤の欠場に頭を痛めていた今野監督が、思い切って小谷内を起用したわけだ。竹野は相変わらずエース格、北村のフェイント・プレー、井上、金田のポストプレーはよかった。ただ前半ゴール前の詰めが甘く、スピードもなかったのでリードされたが、後半徐々にピッチをあげて逆転に成功した。これはやはり練習量によるもの。日体大クは井上、青木、小林、蓮井、藤原が平均した力を持っているが、練習量がたらず惜しくも敗れた。

▽決勝

大崎電気 15（9―4、6―9）13 全立大

「主審」松本（教大出）

位置	【大崎】	点	【立教】	点
FP	田口	0	江名	3
FP	小谷内	2	安達	4
FP	北村	1	中根	2
FP	金田	0	斎藤	2
FP	井上	3	木野	2
FP	竹野	9	松本	0
FP	坂野	0	藤城	0
FP	宮原宏	0	伊東	0
FP	餅原	0	北田	0
GK	福本	0	尾形	0
GK			谷川	0

13 (2) 7MT (0) 15

〔評〕 前半は大崎のペース。竹野、井上、小谷内が無駄なく得点した。確かに動きはよかったし、スピードもあった。北村のフェイントプレーも、ディフェンスもすばらしいものがあった。このぶんなら大崎の楽勝かと思ったくらい。だが勝負というものはわからない。後半になると全立大の動きは大崎電気のそれを上回り、逆に大崎電気は全く動きが鈍ってしまった。全立大は木野、安達、斎藤に打たせて反撃、8分には8―9と1点差につめ寄り、14分には中根のゲットで10―10とタイにした。全立大は14分30秒安達のポストプレー、15分中根のアンダシュートで12―10と大崎をリードした。15分30秒大崎の北村、19分全立大安達のジャンプシュートでいぜん13―11と全立大リード。ここで大崎はエース竹野にボールを集めさせ、竹野一人に打たせた。竹野は期待にたがわず24分40秒にシュートして13―13とタイ。25分40秒に右45度からジャンプシュートを決めて14―13。28分にも中央からジャンプシュートして15―13と2点差をつけた。残りはあと2分。全立大は19分以後得点なし。これは大崎ディフェンスの好守によるもの。

大崎電気は勝ったものの、薄氷を踏む思い。それにしても全立大が見せた後半の猛反撃はすばらしかった。

卒業生の就職先

▽芝浦工大

池田鉄哉（三菱鉛筆＝40年4月にチーム誕生、同チームの監督）三浦敏彦（日建工業）福田紘一（成和道路）永富康弘（常盤工業）木田雅明（千代田印刷機）佐久間庸夫（千代田印刷機）峰岸正之（揖斐川電気）



レナウン抽選負け

女子の部

▽一回戦

日体大（東京）10（4-4, 6-5）9 徳山ク（山口）

清水女高（静岡）11（4-1, 7-5）6 大垣南高（岐阜）

ロンド工業（茨城）24（12-1, 12-2）3 近江絹糸（岐阜）

東京重機（神奈川）14（6-2, 8-1）3 高山高（岐阜）

徳山高（山口）15（3-4, 9-8, 3-2）14 中京大（愛知）

加納高（岐阜）9（6-1, 3-2）3 尼崎ク（兵庫）

〔評〕初出場同士のロンド工業―近江絹糸が注目された。水海道二高出で固めたロンドは、大村の好プレーなどで全員むらのない攻撃力を見せて快勝した。

▽二回戦

大洋デパート（熊本）14（8-1, 6-3）4 加納高

愛知紡（愛知）13（5-2, 8-0）2 徳山高

レナウン（大阪）9（3-2, 6-5）7 日体大

田村紡（三重）16（7-0, 9-0）0 有磯高（富山）

大崎電気（東京）18（9-1, 9-2）3 清水女高

揖斐川電工（岐阜）17（7-2, 10-4）6 日女体短大（東京）

レナウン東京 17（8-2, 9-0）2 東京重機

ロンド工業 13（6-1, 7-3）4 栃木女高

〔評〕予想されたこととはいえ、ベスト8が実業団に独占されたのは驚異だ。レナウン大阪は日体大に食い下がられ、後半15分以後に2点連取してやっと勝ったほかは、いずれも圧倒的な勝ちっぷりである。全国高校優勝の栃木女高も、結成間もないロンド工業に一方的に押しまくられて大敗した。高校界の優秀なOGよって編成され、練習量もじゅうぶんといろ実業団の天下は、このままでは当分続きそうだ。

▽準々決勝

愛知紡 4（3-1, 1-2）3 田村紡

〔評〕愛知紡は小林のロングシュートで優位に立ち、田村紡の反撃をGK篠崎の好守で防いでやっと逃げ込んだ。田村紡は前半ローリング戦法が実らず、後半は7MTやノーマークシュートを失敗、みすみすチャンスをのがしたのは痛かった（金原主審）

大崎電気 15（5-6, 10-0）6 揖斐川電工

〔評〕揖斐川は前半久保田、赤塚の活躍でリードするといろ善戦ぶり。しかし後半は体力の衰えから動きがとまってしまい、そこを大崎に攻められて最後は大差となった（林主審）

レナウン東京 13（5-5, 8-4）9 ロンド工業

〔評〕ロンドのラフな動きにレナウンはとまどったようだが、後半は13分間に連続5点をあげる好調なペースで勝った。せまい体育館のため、持ち前の速攻がつまってしまったのも苦戦の因。初出場ながらここまで勝ち進み、健闘したロンド工業は今後に期待がかけられる（柳沢主審）

大洋デパート 12（7-1, 5-5）6 レナウン大阪

〔評〕大洋は西村を中心によく走り、後半5分10―1と快調に試合を進めた。レナウンはゴール前でよく動いて追いあげたものの、結局前半の点差をつめることができなかった（高橋主審）

▽準決勝

愛知紡 13（5-3, 4-6, 1-1, 1-1, 1-2, 1-0）13 レナウン東京

（抽選により愛知紡の勝ち）

「主審」村田（日体大出）

【レナ】

	選手	得
FP	渡辺	2
FP	太田	1
FP	風岡	4
FP	竹本	6
FP	林	0
FP	川上	0
FP	新山	0
FP	玉山	0
FP	斎藤	0
GK	柿沼	0
GK	山田	0
	計	13
	7MT	(6)

【愛紡】

	選手	得
FP	塚原	4
FP	小林ト	3
FP	関口	0
FP	古谷	6
FP	石川	0
FP	竹市	0
FP	柴田	0
FP	横倉	0
GK	篠崎	0
GK	小林清	0
	計	13
	7MT	(4)

〔評〕レナウンは攻撃がつまりすぎてせっかくのチャンスをつぶしていた。これは出足がなかったのでフォローがないため。しかも得意の速攻が出なかったから、立ち上がりから苦戦した。これに反して愛知紡は伸び伸びとプレーしていた。これが前半の得点となって現われた。とくに古谷のプレーはよかった。前半レナウンは3点のうち、2点は竹本の7MTによ

男女優勝の喜び

男子監督　今野　邦彦

男女とも優勝。いままでの苦労が吹きとんだ。これからも男女両チームが助け合ってがんばって行く。

男子主将　竹野　奉昭

これからもがんばる。

田口　侑義

一年間の猛練習が実った。この感激を再び…。

高井　弘

さらに一層の努力を…。

福本　弘

優勝は努力することによって報いられる。だがこれを長く維持するには2倍の努力がいる。がんばろう。

宮原藤支男

男子の諸君、ありがとう。女子のみなさんおめでとう。

村上　巌

いま以上の執念を…。

高橋　滋夫

さらに努力を…。

井上　素行

勝つためには大いに努力すること。

都丸三七夫

努力のたまもの。

北村　尚英

〝勝ったのだ〟

金田　純男

女子が勝った。男子も勝った。

るもの。あとの1点は渡辺の速攻であげた。持ち前の速攻が出なかった。愛知紡は12分小林トメが左45度からロングをとばして3—3とタイスコア。これを境に愛知紡は13分塚原がGKのこぼれダマを右からプッシュしてリード、15分30秒古谷がきれいに割り込んでシュートし5—3の2点差とした。後半レナウンはやっと調子を出し1分30秒竹本、3分風岡のノーマーク・シュートで追いつき、5分には竹本のシュートで6—5と逆転させた。7分には竹本が4本目の7MTを決めて7—5としたときは、レナウンの勝ちを思わせた。だが愛知紡は9分40秒小林のロング、16分塚原が右からアンダーシュートして7—7。勝負は残る4分にかかった。レナウンは7分から10分間無得点。愛知はレナウンのディフェンスをゆさぶり、18分に小林トメが左45度からロングシュート。これが決まった。19分古谷がうまいドリブルでレナウン・ディフェンスを抜き、ワンバウンド・シュートして9—7と2点差。これで勝負がついたと思った。残り時間1分。レナウンは必死。19分30秒に竹本が決めて9—8。愛知ボール。レナウンは全員アタックに出てカット。このとき愛知はどうしたのか、GKに向かい、エリア内にボールを返した。大きなミス。レナウンに7MTが与えられた。竹本慎重にシュート、タイムアップとなって延長戦。第一延長前半3分愛知紡古谷がロングを決めると、レナウンも3分20秒愛知紡GKがシュートをとめてはね返ってきたボールを竹本が巧みにプッシング・シュートして10—10、同後半30秒愛知紡は古谷が7MTを決めるとレナウンも2分に竹本が強引に中央を突破して11—11。息づまる大接戦。第二延長も愛知の古谷がゲットすれば、レナウン風岡もロングを決め、続いて太田が右15度から低めのシュートを決めてレナウンが13—12とリード。愛知は同後半30分塚原が右から倒れ込んでまたも13—13。残り時間あと2分。互いに目まぐるしくローリングパスを続けてチャンスをねらったが試合終了。抽選の結果、愛知紡が勝ちを握った。

大崎電気 7（3—2、4—1）3 大洋デパート

〔主審〕金原（日体大出）

【大洋】	得
FP 新保	0
高山	0
枝尾	0
中村	0
西村	0
久連松	2
隈	1
立山	0
今村	0
GK 山口	0
小原	0
7MT (3)	3

【大崎】	得
FP 田村	0
笠原	1
宇井	0
斎藤	0
鈴木	3
永井	3
黒川	0
深津	0
GK 古谷	0
川崎	0
7MT (2)	7

〔評〕大崎電気は前半2分30秒永井のシュートで先取点をあげた。これが大崎ディフェンスに余裕を持たせ、伸び伸びとプレーした。8分再び永井のカットイン・プレー、14分鈴木がポールに当ってはね返ってくるボールをたたき込んで3—0とリードした。大洋は久連松をポストに置いて懸命に反撃、14分30秒7MTを得てこれを久連松が決め、19分中村のゲットでやっと3—2と1点差に追いついた。

後半大崎はディフェンスを固め、チャンスと見れば速攻をかけた。後半は全く大崎のペース。得点こそわずか4点だったが、永井、笠原、宇井がよく走ってチャンスを生かした。大洋は久連松一人にたよるだけで、全く勝ち味がなかった。後半における大崎のディフェンスはすばらしかった。

▽決勝戦

大崎電気 11（3—3、8—1）4 愛知紡

〔主審〕村田（日体大出）

【愛知】	得
FP 塚原	0
小林ト	0
関口	0
古谷	3
石川	0
竹市	1
柴田	0
横倉	0
GK 篠崎	0
小林清	0
7MT (2)	4

【大崎】	得
FP 田村	2
笠原	0
宇井	2
斎藤	0
鈴木	3
永井	3
黒川	1
深津	0
GK 古谷	0
川崎	0
7MT (2)	11

〔評〕先取点は大崎電気があげた。前半4分、永井からのパスを田村が決めた。これもすぐ愛知紡の古谷が7MTを決めて1—1。大崎は宇井がよく走れば、愛知も竹市がよく動いてチャンス・メーカーとなっていた。この間大崎鈴木、愛知小林トメの打ち合いがあり、決勝戦にふさわしい試合を展開。前半は大接戦のすえ、3—3となって興味を後半に持ち込んだ。

後半になると大崎は速攻をかけ、愛知紡のディフェンスをかき回した。やっと大崎らしい攻撃。GKの古谷もよく守った。10分までに7—3と4点差をつけて試合の主導権を握った。愛知はなんとかして大崎の速攻をとめようとして前へつめると、大崎は早いパスワークでゆさぶっておいて鈴木に打たせ、17分には10—4とした。これで勝負は完全に決まった。後半の大崎は速攻よりもディフェンスが厚く、愛知紡の塚原、古谷が突っ込もうとしてもはね返された。正面から小林トメに打たせても、大崎ディフェンスの詰めが早く、ほとんどシュートチャンスがなかった。愛知が後半にあげた1点は竹市の7MT一本だけ。攻守とも完全に大崎電気のペース。愛知紡はロングの小林トメが動けず、これが大差の因ともなった。

宮原　宏
男子5年目、女子4年目。やっと待望の男女優勝。長かった。

小谷内正信
もういちどこの喜びを…。

餅原　正脩
むずかしい王座の確保。

坂野　進
一層精進を…。

杉山　成司
うれしさでいっぱい。

小島　功
先輩のファイトに敬意。

女子監督　宮原　俊隆
努力の積み重ね。涙と汗の結晶。耐え抜いた苦しみ。みんなよくやってくれた。万年3位を返上して肩の荷がおりた。これからも努力する。4大タイトルを目ざして…。

女子主将　宇井　敬子
さらに前進!!

伊藤せつ子
鍛えよ!!ド根性。

早乙女芳枝
チームワークの勝利。

古谷　芳枝
〃よかった。〃この優勝を手放さないようにがんばろう。

永井　昭子
社長さんを胴上げしたとき、優勝の喜びを味わった。

笠原喜代子
やっと優勝。

―全日本総合を見て―

まずディフェンスの完成，女子はロングシューター養成

高嶋　洌

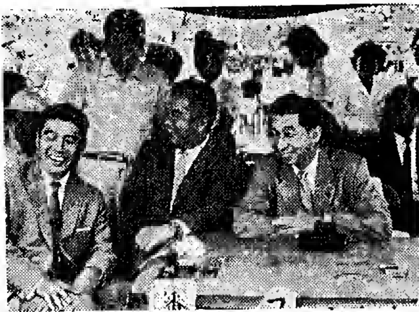
〔総評〕38年の大会に比べて、レベルがずいぶんあがった。男子の全立大、大崎電気、日体大々、女子のレナウン東京、大崎電気、大洋デパート。愛知紡がそれである。近代ハンドボールにはディフェンスの堅さと、セット・オフェンスの完成が望まれている。それに一歩近づいたといっていい。特に女子の大崎電気のセット・オフェンス、また対大洋デパート戦に見せたディフェンスはりっぱである。このプレーをすべてのチームがマスターしたら、日本のレベルはさらに上昇する。日本の現状ではまずディフェンスを完全にマスターし、そのあとにオフェンスをやって行くのが本すじである。ボールに対する詰めの早さが絶対必要である。と同時にゆさぶってくる相手に対して等間隔で詰めることを忘れてはいけない。

男子の全立大―関学戦で、全立大がコート全部を使ったセット・オフェンスはよかった。コートを広く使うのは有利なのだ。広く攻めて相手のディフェンスをくずす。これが勝利へのポイントとなる。立大はロングとポストとのコンビネーションがすばらしかった。これはセット・オフェンスの特徴をよくこなしたといっていい。全立大は決勝の対大崎電気戦で、あまりにもセット・オフェンスにこだわりすぎて動きが鈍かった。とにかくどのチームといえども、走ることを忘れてはいけない。大崎電気は決勝で全立大の不調に救われて優勝したが、走りがよくなかった。暑さのためか、前半と後半の動きが全く違っていた。全日本の一流チームがこんなことではどうしよう。60分間をフルに走れる体力、スピード、気力は持たなくてはだめだ。暑さは理由にならない。世界選手権をねらうチームなら、もっと走力をつけることだ。

準々決勝の芝浦工大―関学戦は雨のためコートを屋外から体育館に移した。このため芝浦工大は得意の速攻が不発に終わって関学に敗れた。だが、どんなコートでも勝てるチームをつくるのが監督だし、そのための練習だと思う。そのような訓練も必要なのではないか。しかしこれはチームばかり責められない。体育館をつくるときに、40メートル、20メートルの広さをとれるように設計すべきである。もちろんこれは地方体協、公共団体の責任者が考えるべきだ。

大崎電気の北村はフェイントパスがすばらしくよかった。ポストに立つ金田、井上に対して通すパスのタイミングがよく、コンビネーションプレーも目だった。GKでは尾形（全立大）福本（大崎電気）のプレーが光った。サイドからのシュートはほとんどはいらない。これはヨーロッパのよさを学びとったといっていい。それにいままでのGKは両手でボールをとめていたが、この二人は両手、両足でとめていた。ボールをとめる個所が右足、左足と二カ所ふえたわけ。しかもからだ全体を使ったプレーはいい。全般的にみてFPのパスがよくなった。コントロールにスピードがプラスされていた。手首も徐々に強くなってきている。それに男子に限らず女子にも言えることだが、ロングシューターの養成は絶対やるべきだ。6人全部がロングを打てるのが理想だ。それは無理な注文だから、せめて4人のロングシューターは必要。男子にはロングシューターが多いが、女子はほんとうに少ない。長身者は上から投げおろすシュートをやれ。ボールにスピードをつけ、高い位置から打て。それも小さく早いモーションで…。西村（大洋デパート）風岡（レナウン東京）らはこのプレーをやった方がいい。永井（大崎電気）はまずコントロールをつけることだ。女子の世界選手権までに何人のロングシューターが出るか楽しみ。

ここで全国の中学。高校の先生方にお願いしたい。背の高い生徒、学生を一人でも多く見つけてほしい。からだの大きいことは利点である。これが五年、十年先の日本の大きな力となる。バレーボール、バスケットボールの残りをもらうような気持ちは捨ててほしい。これがやがて世界選手権大会で優勝する道となるのだ。



観戦中の高松宮殿下と渡辺大崎電気社長。中央は筆者の高嶋理事長

西　静子
すなおに言って、ほっとした気持ちです。

早川　清美
近いうちにきっと、この喜びがまたやってくる。がんばろう。

龍沢　洋子
これからの苦労がたいへんです。大いにがんばってください。

斎藤　親子
チームワークの勝利。

黒川　泰恵
「やればできる」。これを知ったとき、とてもうれしかった。

川崎　幸子
努力のたまもの。

小笠原美佐子
先輩!!おめでとう。

深津久仁子
いまここに勝利の喜びを知る
いままでの練習
悪夢のごとく消えていく
わが大崎、ここにあり
誇りに覚えしわが身である

田村うた子
「よかったね」。

鈴木　功子
私たちは勝ったんだ。

塚田みつ子
"この勝利、この感激"を忘れずに…。

×　×　×

大阪（イーグルス）が3連勝

第7回全日本教職員選手権

第7回全日本教職員選手権大会は8月12日から3日間、京都市体育館に20チームが参加して行なわれた。決勝戦は大阪イーグルス—熊本教員クの国体と同じ顔合わせとなり、大阪が3年連続優勝した。

▽一回戦

福岡教員ク 30—12 福井教員ク
滋賀教員ク 21—18 神奈川教員
愛知クラブ 23—18 大阪学校体育会
愛媛教員 21—16 広島県ク

▽二回戦

大阪イーグルス 29—15 福岡教員ク
福島教員ク 34—13 栃木クラブ
長野教員団 23—12 G・T・C（岐阜）
滋賀教員ク 15—11 岡山教員
兵庫スワロー 32—1 愛媛教員
香川教員ク 28—16 京都教員団
熊本教員ク 24—9 愛知クラブ
興東ク（奈良） 不戦勝 新潟教員

▽準々決勝

大阪イーグルス 26—13 福島教員ク
長野教員団 19—18 滋賀教員ク
兵庫スワロー 23—16 香川教員ク
熊本教員ク 47—16 興東ク

▽準決勝

大阪イーグルス 22（12—8、10—4）12 長野教員
熊本教員 20（10—9、10—9）18 兵庫スワロー

▽三位決定戦

兵庫スワロー 24（9—13、15—10）23 長野教員

▽決勝戦

大阪イーグルス 19（9—7、10—10）17 熊本教員

プチモンゴベール氏、フランス協会名誉会長に

▽…フランス協会長のシャルル・プチモンゴベールは昨年6月辞任した。後任にはネルソン・ペルー氏が選ばれ、プチモンゴベール氏はフランスの名誉会長となった。



マナーに注意せよ



岡本克彰

〔評〕猛暑、しかも室内という悪条件のもとで各チームとも好プレーを見せた。決勝は大阪イーグルス—熊本教員となり、息づまる接戦のすえ大阪イーグルスが3連勝した。各チームともに練習不足が目だち、非常に動きの鈍い試合が多かった。しかし技術的な差はあったが、最後までベストを尽して戦ったことは指導者としてたいへんよいことである。大阪イーグルスはメンバー充実して練習量もあり、優勝は当然といえよう。このほか熊本、兵庫、長野、滋賀、香川がよい成績を残したのは不断の努力と熱意のたまものである。年々参加数が増加している。理想からいえば全地区から参加して知識と経験を深め各地において指導の一端にしてハンドボールの発展に努力されることを希望する。年令別に見ると20代が178人、30代—74人、40代—3人と大分若返った。また陸上競技、バレーボール、バスケットボールなど他の競技からの転向者も数多く参加し、指導者数も増加して喜ばしいことである。幸田選手（兵庫）は手術後にもかかわらず、元気なプレー、闘志とハンドボールの情熱は賞賛に価する。終わりに指導者の大会として競技場内のマナーはともかく、競技場外でのマナーに欠ける点が立った。指導者としてつねに他の模範の態度を示さなければならない立ち場の者としてはなはだ遺憾に思った。

（岡本克彰＝大阪協会常任理事）

外人校長も試合出場

楽書帳 18回

鷲尾武治

▽…十一月に九州出張の帰りに熊本市へ立ち寄った。これは八月に高山市の全日本総合のとき、大洋デパートの井君に「世界選手権のフイルムを見せてほしい」と要請された。そこで大崎電気の渡辺社長にお願いして8ミリを借りて熊本へ持って行った。ちょうど熊本県高校大会があったので、試合終了後に熊本市立高の視聴覚教室をお借りした。同校北川先生のご好意によるもの。集まった人は中学生、高校生男女合わせて約百五十人。せまい教室は若さでむんむん。8ミリは渡辺社長が世界選手権に行ったとき、社長自ら撮影したカラーフイルム三巻。フランス・ナショナルチームとの試合は、体育館が明かったのでよく撮れていた。入場無料(?)のお客さんは食い入るようにしてスクリーンに…。日本が得点すると一斉に拍手。愛国心の表われか。チェコで撮影したものは体育館が暗いため、フランスよりも少し見にくかった。だがお客さんたちは世界最高のプレーを見て大喜び。「ぼくもバックシュートしてみよう」とか「あのジャンプシュートすてき」とかの声しきり。このあと北川先生（熊本市立高）がルーマニアで開かれた女子世界選手権大会で撮影したフイルムを映写してこの会を終わった。

▽…大洋デパートの山内人事課長に会ったとき、すばらしい話を聞いた。これは40年夏に熊本、大分県境の九重高原にハンドボール夏季学校を開く構想を持っていることである。「費用は往復のバス代ていどですませたい」というのが山内さんのねらい。この高原にテントを張り、そこで合宿する。食事は近くのホテルがまかなってくれることや、温泉が豊富なので無料ではいれるとか。このホテルの支配人が山内さんの知人で、いろいろと便宜をはかってくれるとか。すでに他のスポーツは毎年夏にこの九重高原で合宿しているという話。うらやましい話である。

▽…ついでにもうひとつ熊本の話。十一月下旬の教職員大会には外人校長先生や、外人先生が出場した。藤田理事長の話によると、「先生がたが熱心なので、こちらが追い回される仕末ですよ。この外人校長先生は五十三歳だが、とても張り切っているんですよ。りっぱな大会にしたい」と言っていた。大洋デパートの山内人事課長も一役買い、「それなら敢闘賞ともいうべき"最高年齢賞"を出して表彰しましょう」と側面から応援。このほか、"初出場賞"、"ファインプレー賞"も用意したそうだ。これもうらやましい話ですねー。

○　○　○

時評

衰退するクラブチーム

＝全国大会に厳しい現実＝

▽…実業団の拡充は目ざましい。わずか二、三年の間にこうまで急激に伸びるとは想像もしなかった。それにつれて球界の勢力地図も大きくぬり替えられた。39年の全日本女子ではベスト8を実業団が独占するまでになった。この傾向はやがて男子にも波及しよう。勢力分布が学生と実業団にはっきり色分けされてしまうのも遠い先のことではなさそうだ。

▽…対照的にクラブチームは、その影が薄くなるばかりである。「どうにかならないものか」と思う。これまで日本のハンドボール界を支え、そして盛り上げてきたクラブチームの情熱がまるっきり忘れ去られてしまおうとしているのだ。時の流れだと言う声もある。日本のアマチュアスポーツ界のほとんどの競技が、この問題にぶつかったともいう。

▽…しかし、クラブチームのなみなみならぬ努力と熱意を『時流』という一言で片づけてよいものかどうか。実業団が増したといっても地方協会の登録チームの大半はクラブチームである。ひいてはそれが日本のハンドボール界を支えている一本の柱にもなっているのである。最近北日本新聞(富山)に紹介された氷見クラブの記事は、そのまま全国クラブチームの実態でもあると思うので紹介しておこう。

——氷見クラブはメンバー20人で職場がみんな違う。そのため日曜出勤や交代制にしばられ、練習をやろうにもそろわないことが多い。大会前一ヵ月間はそれぞれ職場をやりくりして強化練習をやるが、これは夕方から午後十時までというきびしさ。いざ大会となると出場の許可を各職場に求めるのだが、心よい返事はまず得られない。そのたびに監督の桶家寛氏（明大OB）は平身低頭してお願いして回る。

もう一つの悩みは運営費。現在は一人千円の会費制だが、これっぽちではとてもやっていけない。大会のたびにお互いが負担し合う。一昨年の全日本に出場したときは旅費節約のため、自家用車を交代して運転。このため会場に着いたときは、みんなグロッキーになって試合どころの騒ぎではない——。

▽…クラブチームの現状が好転するという材料はひとつもない。となれば、学生や実業団との差はますます開くばかりであろう。それがクラブチームのメンバーの情熱に水を注ぐことになるのを心配する。

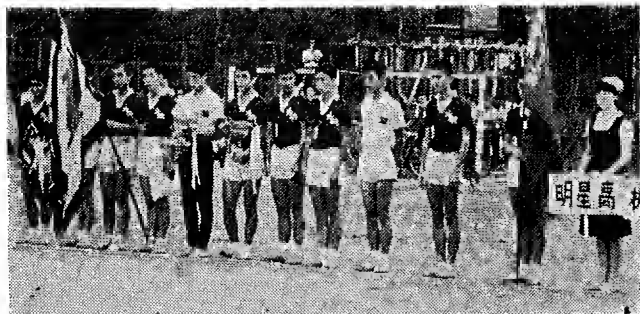
○　○　○

栃木女、城北の3連勝はばむ

男子 明星（東京）に初の栄冠輝く

第15回全国高校選手権

第15回全国高校選手権大会は8月2日から6日間、長野県の上田市営競技場、上田高校球技場を中心に、全国の代表男子45校、女子41校が参加して開かれた。その結果、男子は明星（東京）が初優勝。女子も、栃木女が静岡城北の3連勝をはばんで初優勝した。なお40年の第16回大会は熊本市で開かれることに決まった。



男子優勝の明星高チーム

男子

▽一回戦

新居浜工（愛媛）22（10－6、12－3）9 氷見（富山）
函館東（北海道）22（14－5、8－9）14 浦和市立（埼玉）
富岡（群馬）29（17－4、12－8）12 鶴崎工（大分）
熊本市商（熊本）32（18－3、14－7）10 福島（福島）
北佐久農（長野）17（10－9、7－4）13 甲南（鹿児島）
岸和田（大阪）20（11－3、9－4）7 湯沢（秋田）
塩山商（山梨）21（11－7、10－4）11 福井商（福井）
加納（岐阜）13（8－2、5－4）6 修道（広島）
伏見（京都）17（10－6、7－6）12 柏崎（新潟）
愛知工（愛知）21（11－6、10－4）10 仙台一（宮城）
上田（長野）26（16－5、10－6）11 東大寺学園（奈良）
盛岡一（岩手）15（8－6、7－8）14 倉敷工（岡山）
松任農（石川）29（14－12、15－11）23 青森（青森）

▽二回戦

桜台（推薦）22（11－5、11－7）12 富岡
足利（栃木）30（21－5、9－6）11 松任農
盛岡一 17（11－2、6－10）12 麻生（茨城）
新居浜工 23（12－7、11－3）10 和歌山商（和歌山）
明星（東京）19（8－5、11－7）12 伏見工
四日市工（三重）18（11－10、7－5）15 北佐久農
土佐（高知）16（7－4、9－5）9 松江工（島根）
堺工（大阪）16（6－5、10－7）12 愛知工
徳山（山口）23（14－4、9－10）14 函館東
兵庫工（兵庫）23（9－3、14－0）3 寒河江（山形）
清水商（静岡）17（13－7、4－5）12 岸和田
博多工（福岡）14（6－7、8－6）13 塩山商
加納 12（8－5、4－3）8 神代（東京）
関東学院（神奈川）17（8－7、9－3）10 高松一（香川）
熊本市商 13（8－8、5－4）12 中京商（愛知）

〔注〕上田－八幡商（滋賀）は後半14分21－8と上田高がリードしたあと、八幡商の交代選手に規則違反があった。山田主審から上田の没収試合による勝ちが宣告された。

▽三回戦

桜台 18（10－5、8－7）12 足利
新居浜工 12（5－4、7－5）9 盛岡一
明星 30（11－7、19－1）8 四日市工
堺工 27（15－3、12－2）5 土佐
徳山 15（7－7、8－5）12 兵庫工
清水商 21（10－8、11－4）12 博多工
加納 17（8－7、9－4）11 上田
熊本市商 16（8－5、8－3）8 関東学院

▽準々決勝

新居浜工 18（9－5、9－6）11 桜台

〔評〕立ち上がりから新居浜のペースで進み、連勝をねらう桜台は、いちどもリードすることなく最初の関門で敗れた。新居浜の勝因は14点を叩きだした高橋富と高橋益の活躍にあるが、「打倒桜台」に一丸となった全員のファイトが第一である。桜台はあせりから荒いプレーを見せ、前年度優勝校にしてはまずい試合ぶりだった。

明星 17（8－6、9－4）10 堺工

明星の速攻はすばらしかった。前半12分から連続6点を奪って試合を決めた。堺工は、前後半とも出足はよかったが、あとが続かず善戦にとどまった。

徳山 24（13－7、11－3）10 清水商

徳山は多彩な攻撃で清水商を防戦一方に追いやり、ワンサイドゲームに終わった。清水商は前半15分で7－0と引き離されて気勢をそがれてしまったが、それほど徳山の攻撃は見事だった。

熊本市商 16（9－7 7－6）13 加納

勝負は最後の5分間にかかったが、7MTで優位に立った熊本がからくも逃げ切った。GK下里の好守も熊本の勝因。敗れたとはいえ加納の善戦はほめていい。

▽準決勝

熊本市商 14（7－7 7－6）13 徳山

「主審」村田（日体大出）

【熊本】		得
FP	岩村	0
	東	5
	上田	2
	松本	2
	牛島	1
	村上	4
	田上	0
	赤尾	0
	室岡	0
GK	下里	0
	清水	0
	7MT	(2)
	計	14

【徳山】		得
FP	明石	4
	加藤	0
	野村和	4
	伊ケ崎	2
	田中	0
	長広	3
	河村	0
	住田	0
	道山	0
GK	野村要	0
	奥	0
	7MT	(4)
	計	13

〔評〕立ち上がり5点をリードされた徳山は、そのあと驚異的な粘りを見せた。前半同点と追いついたあと後半9分まで一進一退。雨に見舞われて両校ともせっかくのチャンスを生かせず、約10分得点がなかった。熊本は後半18分わずかなスキをついて上田、村上の連続得点をあげ、再びペースを握った。23分14―11と差をつけ、追いすがる徳山の反撃を1点差で押えて逃げ切った。

明星 13（4－7 9－1）8 新居浜工

〔評〕優勢を予想された新居浜は好調なすべり出しで前半10分までに4―0としたが、その後は互角の戦況だった。

「主審」柳沢（日体大出）

【明星】		得
FP	高橋	3
	鈴木	5
	保木野	1
	五十嵐	2
	寺本	2
	広野	0
	宇佐美	0
	後藤	0
	勝島	0
GK	綿貫	0
	清水	0
	7MT	(1)
	計	13

【新工】		得
FP	青野	0
	高橋富	2
	円尾	1
	守屋	2
	高橋益	3
	鈴木	0
	小野	0
	塩崎	0
	矢野	0
GK	高橋宏	0
	田頭	0
	7MT	(1)
	計	8

後半になると明星は失点バン回に積極的な攻撃を見せてこれが成功。5分に7―7とした。これに対して新居浜工は前半のチームプレーを忘れ、攻撃がバラバラとなって好機をつぶした。後半10分逆転されると、あせりも手伝ってまずい攻撃が続き自滅してしまった。

▽決勝

明星 10（4－5 6－1）6 熊本市商

「主審」中沢（芝浦工大出）

【熊本】		得
FP	岩村	0
	東	4
	上田	0
	松本	0
	牛島	0
	村上	2
	田上	0
	赤尾	0
	室岡	0
GK	下里	0
	清水	0
	7MT	(1)
	計	6

【明星】		得
FP	高橋	3
	鈴木	2
	保木野	1
	五十嵐	0
	寺本	1
	広野	3
	宇佐美	0
	後藤	0
	勝島	0
GK	綿貫	0
	清水	0
	7MT	(1)
	計	10

〔評〕息づまるような試合。15分明星高橋のゲットでようやくスコア板に得点が掲げられるという状態だった。新潟国体（一回戦）のときは7点差で明星が勝っており、精神的な条件は熊本不利だった。だが明星研究のあとが見え、容易に得点を許さなかった。均衡が破れてからは、ともに特色を生かし、目まぐるしく得点を入れ合った。熊本は24分、東の7MTで待望のリードを奪った。後半にはいってすぐ明星はタイとし、5分7MT（鈴木）、8分寺本、9分広野、14分高橋と連続ゲットして試合の主導権を握った。リードされると熊本はポイントゲッターが東と村上に片寄る欠点を暴露し、組織的な攻撃が見れず、22分やっと1点を返して後半の零封をまぬがれたにすぎなかった。総合力にまさる明星の勝利は順当といえる。

ところで東京の代表校がこの大会で優勝したのは初めて。これは国体でもその記録がない。東京に高校の全国タイトルが輝いたのは昭和22年の第1回東西対抗で世田谷工が優勝していらいのこと。また〝優勝〟が箱根を越したのは第3回大会（昭23）の桐生工（群馬）いらい実に12年ぶりである。なお第10回大会（昭34）から続いていた愛知県勢による連勝は5年間で終止符を打った。

親子二代が三組

本年は珍しく親子で活躍するかたがたが三組も現われた。これはハンドボール界では初めてのことで親と子が同じスポーツをやり、そろって大会に出場。ハンドボールについて語り合うなんて、想像しただけでも楽しいではありませんか。







（上）第十九回（新潟）国体会場で、嶋田新太郎副審判長と、長女美代乃さん。（富山県有磯高校三年生）

（中）第十五回全国高校選手権大会会場（上田）で、若崎日本協会審判部長と長男重武君、（横浜、関東学院高校三年生）

（下）第十五回全国高校選手権大会会場で新居浜工業高校（媛）高橋満年監督と、長男宏彰君（新居浜工高三年）

女子

▽一回戦

加納（岐阜）8（4－4 4－2）6 寝屋川（大阪）

大谷（大阪）20（10－1 10－3）4 室蘭商（北海道）

盛岡二（岩手）7（3－1 4－5）6 井原（岡山）

秋田和洋（秋田）15（6－2 9－5）7 山陽女（広島）

日川（山梨）14（7－7 7－5）12 徳山（山口）

菊華（東京）6（4－4 2－0）4 松江市女（島根）

▽二回戦

八幡商（滋賀）21（12－8 9－8）16 前橋市女（群馬）

菊池農蚕（熊本）8（3－2 5－4）6 名古屋女（愛知）

尼崎（兵庫）26（10－0 16－2）2 羽咋（石川）

栃木女（栃木）11（9－0 2－2）2 加納

柏崎常盤（新潟）10（3－3 7－6）9 和歌山商（和歌山）

深谷女（埼玉）11（7－2 4－3）5 吉原（静岡）

秋田和洋 28（13－1 15－4）5 川崎市立（神奈川）

涌谷（宮城）12（7－1 5－4）5 生駒（奈良）

大分東（大分）8（1－1、5－5、1－0、1－1）7 尼崎
小諸商（長野）12（8－4、4－2）6 高岡（高知）
半田（愛知）9（4－1、5－0）1 菊華
水海道二（茨城）6（3－4、3－1）5 大谷
明善（福岡）20（12－2、8－2）4 津女子（三重）
新居浜東（愛媛）8（4－3、4－2）5 小高農（福島）
富山女（富山）7（6－2、1－4）6 日川
菊池農蚕 15（8－1、7－4）5 京都女（京都）
桜水商（東京）8（2－2、6－1）3 福井商（福井）
上田城南（長野）11（3－2、8－7）9 八幡商
静岡城北（推薦）10（2－4、8－2）6 盛岡二

▽3回戦

栃木女 13（5－3、8－0）3 柏崎常盤
深谷女 10（3－4、5－4、1－1、1－0）9 秋田和洋
大分東 13（7－2、6－2）4 涌谷
半田 19（11－2、8－5）7 小諸商
明善 10（8－3、2－4）7 水海道二
新居浜東 10（3－6、7－2）8 富山女
菊池農蚕 15（8－0、7－2）2 桜水商

静岡城北 13（6－2、7－2）4 上田城南

▽準々決勝

栃木女 20（10－2、10－2）4 深谷女

〔評〕 栃木は前半多彩な攻撃で深谷に乗じるスキを与えなかった。

大分東 11（6－4、5－6）10 半田

〔評〕 大分東は前半終了間ぎわに2点を入れた。後半GK中村の好守を中心によく守り、名門半田を破る殊勲の星をあげた。

明善 19（8－3、11－3）6 新居浜東

〔評〕 勝負を分けたのは体力の差。新居浜は無理な体勢でのシュートが多かった。一方明善はスピード豊かな攻撃でディフェンスをくずし、確実にシュートを決めていた。

静岡城北 6（4－2、2－3）5 菊池農蚕

〔評〕 菊池の食い下がりで見ごたえがあった。互角の戦況から城北は14分堀、16分松田のゲットで優勢となった。1点ならともかく、2点差は大きい。後半菊池は奮起して7分5－5のタイに追いついた。

しかしここまでに全力を傾けすぎ、このあと得点できなかった。8分城北松田の勝ち越し点がそのまま決勝点になった。

▽準決勝

静岡城北 11（6－3、5－5）8 明善

〔主審〕 中沢（芝浦工大出）

【明善】	得		得	【城北】
高木	1	FP	1	落合
今村恵	0	FP	0	早川
山口	0	FP	1	杉山
津田	2	FP	0	石垣
原	1	FP	6	松田
国武	1	FP	1	小林
伊藤	3	FP	2	堀
後藤	0	FP	0	太田
石井	0	FP	0	黒柳
今村玲	0	GK	0	奥山
篠原	0	GK	0	山田
	8	(1) 7MT (1)	11	

〔評〕 城北の中盤の強さはすばらしかった。疲労度を乗り越える体力、気力の養成が、しっかりしていることを示すものだろう。この試合でも前半10分から10分間に4点をたたき出した攻撃力が勝因だ。明善は後半ミドルシュートを打って点差をつめたが、この戦法を前半に見せていたら、もつれた試合になっただろう。

栃木女 8（5－3、3－1）4 大分東

「主審」辻（日体大出）

【大分】	得		得	【栃木】
河野	0	FP	8	田辺
藤野	0	FP	0	片庭
田中陽	1	FP	0	柴田
溝辺	2	FP	0	網川
井上	0	FP	0	金子
姫野	1	FP	0	船田
阿部	0	FP	0	町田
内田	0	FP	0	柏崎
山出	0	FP	0	川田
中村	0	GK	0	酒井
田中佐	0	GK	0	寺内
	4	(0) 7MT (3)	8	

〔評〕 栃木は田辺が全得点をたたき出した。田辺への配球のよさもあったが、その攻撃力は抜群。この活躍の前に大分東の健闘はかげの薄いものになってしまった。キャリアの不足を闘志でカバー、ここまで進出したのは実にりっぱであった。



女子優勝の栃木女高

田辺（栃木）が全得点

▽決勝

栃木女 6（3－3、3－0）3 静岡城北

「主審」柳沢（日体大出）

私の感じたこと

審判はもっと勉強せよ

高嶋 洌

六月の新潟国体、八月の全国高校、全日本数職員を見て感じたこと。

マナーについて

選手たちの競技場外におけるマナーは、ここ数年全般的にとてもよくなった。しかし残念なことに一部の人、二、三のチームにまだスポーツマンの日常のマナーのいかなるものかを解さない傾向がある。スポーツマンは学校の成績が悪く、粗野であるとの社会通念は残念なことである。このような考え方、見方をなおして、全員が真に世の中に信頼され、尊敬されるようになるのは、現在のスポーツマンが日常の生活態度をもって世に向かう以外にはない。スポーツやスポーツマンが、社会生活から遊離しているかぎり、スポーツの健全な発展はありえない。同様に全ハンドボールマンが、ことごとく世の良識ある層から支持されるとき、初めてハンドボールが真の振興を見るときである。これを忘れてはなるまい。

数年前までのレフェリーは、どちらかといえば検察官の態度

	栃木	得
FP	田辺	6
	片庭	0
	柴田	0
	網川	0
	金子	0
	船田	0
	町田	0
	柏崎	0
	川田	0
GK	酒井	0
	寺内	0
7MT	(1)	6

	城北	得
FP	落合	1
	早川	0
	杉山	0
	石垣	0
	松田	2
	小林	0
	堀	0
	太田	0
	黒柳	0
GK	奥山	0
	山田	0
7MT	(3)	3

〔評〕3連勝をねらう静岡城北、初優勝をねらう栃木女ともに攻撃型の強者。前日の雨で軟かくなったコートを除けば申しぶんのない条件のうちに試合が始まった。先手はあっけなく栃木があげた。30秒田辺の好シュートである。しかし城北も4分落合が返し、6分には7MT（松田）で逆にリード。足場の悪さでスピード感はなかったが、両チームとも巧妙なローリング・オフェンスを見せた。そしてわずかなすきを得点に結びつけ、三度びタイスコアのまま後半にはいった。

後半になると互いに動きが鈍くなった。ポストプレーのマークなども堅さが目だち、再三にわたり主審のホイッスルで試合は寸断された。後半12分、栃木田辺が得意のロングシュートであげた1点が、その後の戦局を重苦しく支配。特に城北はチャンスを生もうとボールを回転させるが突破口がなく、そのまま時間がたった。結果的にはこの間に得点機をつかめなかったことと、7MTを二回失敗したのが大きな敗因となった。栃木は29分田辺、そしてタイムアップ寸前の7MTで初優勝を決定づけた。栃木の勝因は、後半城北の攻撃を零封した守備力のよさとエース田辺の強肩だ。田辺はこの大会で実に42点をマークしている。これは栃木女高の全得点の七割強に当たる。特に準決勝、決勝の連続14ゲットは球史に残る超人的なレコードといえよう。敗れた城北は3連勝を目前にしてその偉業を逸したが、攻守に気力充実のプレーを見せたのはりっぱだった。再び栄光の座への精進を期してやまない。

であった。しかし競技がスピード化され、観衆も広い意味で競技の一要素と考えられる現在は、反則の摘発のみを重点に笛を吹くことは間違いである。これからの審判は、考え方としてオーケストラの指揮者の態度でなければならない。オーケストラの指揮者は第一バイオリンからドラムにいたるまでの、何十人、いや何百人のそれぞれをすべて統轄すると同時に各人の力をじゅうぶん発揮させることだ



清新の気みなぎる
—全国高校選手権に思う—

若い力が火花を散らして激突。インター・ハイのよさはそこにある。そして、それが〝世界〟をねらう力強い底辺になるのだ。高校スポーツ界、少年スポーツ界の充実が、いかに大切なものかはオリンピック東京大会の例を引き出すまでもあるまい。炎天下にくりひろげられた八十数試合いや、各地の予選を含めて一千近いこの若さの対決、どれもみな日本ハンドボール界の前途に明かるい希望をもたらしていたと言ってよいだろう。

特に目につくのは体位の向上である。高嶋理事長はつねづね『世界選手権を得るには185センチ(男子)以上の選手が最低三人は必要だ』と言っているが、この大会を見ているとこの希望は夢でない。地域差がなくなったのも、競技の普及を示すものだ。これまでの大会は上位校を生む地区が半ば固定化していた。それが今年は思いもよらぬチームが進出している。たとえば女子の大分東高がそれである。尼崎、涌谷、半田と名門中の名門を連破しての三位獲得はりっぱ。大分県といえば37年2月に協会が発足したばかりである。先進地区に追いつこうとした指導者の熱意、選手の自覚がこの好結果を生んだのであろう。大分東高はもちろん初出場であり、このほか例年になく初出場校が多かったのも同じ意味でうれしいことだ。出場校の常連化は好ましいことではない。新陳代謝、栄枯盛衰があってこそ、初めて発展があるのであり、伝統が生まれる。中京商がくずれ、桜台が敗れ、寝屋川が一回戦で姿を消したからといって騒ぐことはない。

それらを『番狂わせ』と呼ぶのは、ジャーナリスティックな面だけであろう。しかし古豪、名門と称された諸校の意地と根性は、決して枯れ果ててしまうことはあるまい。栄光に包まれた伝統の力は、やがて新しい息吹きを示し、力強い復興をとげよう。いくつもの、たくましい勢力が生まれてこそ球界の真の発展がある。学生界、実業団球界が整備されてハンドボール界は念願の一貫性が成った。この大会で活躍した選手たちは高校を卒業すると同時に、ハンドボールからも離れるという。これまでの多くの先輩が体験した不幸を味わなくてすむ。クラブチーム、大学、実業団、若い力を円熟させるべき活躍の場は大きく開かれている。

大会の歴史も15年。高校界も一つの転期に立ったといえる。これまで以上にこの大会にかけられる期待は強く、大きくなった。そして、その希望の成就がじゅうぶんに可能であることを今年の大会は示した。清新の気みなぎるこの大会の優勝校が、男女期せずして初優勝であったことも、まことにめでたいと思うのである【黒尾　武】



芝浦工大、立大破り3連勝

関東学生秋季　法政（2位）の活躍で波乱

関東学生秋季リーグ戦は10月31日、駒沢第二球技場に一部8、二部6、三部6、女子3の23校が参加して開幕。昭和37年春いらい5シーズンぶりに古巣の駒沢に戻って選手の意気込みも一段と高まり、波乱に富んだリーグ戦となった。優勝候補と見られた芝浦工大、立大、教大が最終日に1敗で並び、優勝決定戦は必死とみられた。ところが教大は法大に敗れたため、芝浦工大、立大戦に春と同様に優勝がかけられた。芝浦工大は地力を見せ快勝。3シーズン連続、14回目の優勝をとげた。なお芝浦工大は秋季リーグには昭和31年いらい9連勝。また女子は日体大が安定した攻守で連勝。通算11回目の優勝を飾った。

▽男子一部

芝浦工大 34（20－8、14－7）15 明大
立大 26（14－9、12－8）17 中大
法大 22（12－8、10－10）18 日体大
教大 19（11－10、8－4）14 早大
教大 28（16－5、12－5）10 日体大
法大 35（16－8、19－11）19 早大
芝浦工大 35（16－8、19－5）13 中大
立大 23（13－6、10－10）16 明大
立大 25（13－9、12－3）12 早大
日体大 19（11－8、8－9）17 芝浦工大
教大 24（11－11、13－6）17 明大
法大 22（16－9、6－10）19 中大
教大 22（12－9、10－7）16 中大
立大 25（16－6、9－4）10 日体大
芝浦工大 25（12－10、13－4）14 早大
法大 26（7－3：7－9、12－10）22 明大
日体大 15（7－7、8－6）13 明大
中大 17（9－8、8－7）15 早大
立大 24（12－9、12－5）14 法大
芝浦工大 21（14－4、7－5）9 教大
芝浦工大 27（12－8、15－6）14 法大
教大 14（8－4、6－8）12 立大
明大 26（16－5、10－9）14 早大
日体大 22（18－10、4－3）13 中大
中大 27（16－12、11－9）21 明大
日体大 15（9－8、6－4）12 早大
法大 22（2－2、5－1：8－8、7－7）18 教大
芝浦工大 27（18－7、9－4）11 立大

関東学生秋季リーグ成績（一部）

	芝	立	法	教	日	中	明	早	勝	敗
① 芝浦工大	×	○	○	○	●	○	○	○	6	1
② 立大	●	×	○	●	○	○	○	○	5	2
② 法大	●	●	×	○	○	○	○	○	5	2
② 教大	●	○	●	×	○	○	○	○	5	2
⑤ 日体大	○	●	●	●	×	○	○	○	4	3
⑥ 中大	●	●	●	●	●	×	○	○	2	5
⑦ 明大	●	●	●	●	●	●	×	○	1	6
⑧ 早大	●	●	●	●	●	●	●	×	0	7

早慶の奮起を望む

安藤純光

【総評】

7人制ハンドボールを実施して2年目の秋を迎え、技術の研究も急速に進んだ。各チームともそれぞれ特色あるプレーを身につけ、この意味では今シーズンのリーグ戦はどの試合も興味深いものであった。

さて今シーズンは春に続いて芝浦工大が連続優勝した。芝工大は最も安定した力を発揮していた。これに次いで立大、教大、法大が健闘したが、とくに立大はいま一歩のところで優勝を逸した。日体大は芝工大戦に善戦し、今シーズンのヒットであった。これに引き替え、明大、中大、早大が低調。リーグ第3日までで上位チームと下位チームがはっきりしてしまい、勝ち星争いは後半戦に集まった。芝工大は第3日に日体大に苦敗したが、その後を順調に勝った。持ち前の脚力をじゅうぶんに生かし、森田、池田、近藤などを中心によくまとまっていた。平均した得点力を示し、リーグ随一の安定した力を持ったチーム。

立大は江名、斎藤、木野がよかった。とくに木野は一年生ながら春より一段と成長し、立大の大きな得点源となった。リーグ随一のパスワークを誇る立大ではあったが、ここに一本の力強いしんがなかった。教大は前半戦圧倒的な力を示して勝ち進み、芝工大、立大と並んで優勝戦線の一角にあった。立大を倒して優勝への望みを残したが、最終日に法大に敗れて望みを絶った。北井はさることながら、新人大西のプレーは賞される。

法大は西村、尾崎、斎藤の四年生選手をそろえ、日体大、中大、明大と接戦しながら前半で4勝をあげ、立大、教大と並んだが、立大、芝浦に敗れて5勝2敗の成績に終わった。いつも持てる力をじゅうぶん発揮できるようなプレーを望みたい。結城を中心とした日体大が奮起一番、芝工大と大接戦のすえ、勝ったのはほめられていい。中大、明大は試合の前半を接戦しながら後半に点差を開かれている。もう一歩試合運びに研究が必要。明大福本の成長ぶりは注目される。春5位の早大は連敗、入れ替え戦で茨城大に敗れて二部に転落した。伝統ある早慶の奮起を祈りたい。一方二部は茨城大が慶大に敗れながら4勝1敗の成績で優勝。早大に勝って一部入りした奮戦ぶりはすばらしいものがあった。他のチームへの刺激剤になったことと思う。

▽男子二部

慶大 27－15 日大
茨城大 19－15 順天大
防衛大 18－17 東大
慶大 21－19 順天大
防衛大 17－12 日大
茨城大 20－8 東大
順天大 18－16 東大
防衛大 14－10 慶大
茨城大 25－11 日大
順天大 14－8 日大
東大 18－16 慶大
茨城大 18－7 防衛大
東大 27－14 日大
順天大 15－11 防衛大
慶大 20－16 茨城大

「順位」 茨城大4勝1敗 ②慶大、順天大、防衛大3勝2敗 ⑤東大2勝3敗 ⑥日大5敗

▽男子三部

東京学大 21－6 上智大
武蔵工大 24－11 関東学院
千葉工大 27－9 理科大
東京学大 30－11 関東学院
千葉工大 20－17 上智大
武蔵工大 35－7 理科大
関東学院 26－11 理科大
東京学大 21－12 千葉工大
武蔵工大 19－9 上智大
武蔵工大 13－10 千葉工大
関東学院 15－14 上智大
東京学大 35－6 理科大
上智大 19－6 理科大
千葉工大 25－12 関東学院
東京学大 12－11 武蔵工大

「順位」 ①東京学芸大5勝 ②武蔵工大4勝1敗 ③千葉工大3勝2敗 ④関東学院大2勝3敗 ⑤上智大1勝4敗 ⑥理科大6敗

▽女子（二回戦制）

東女体大 13（7－3, 6－1）4 日女体短大
東女体大 10（7－1, 3－3）4 日女体短大
日体大 17（10－2, 7－1）3 日女体短大
日体大 18（9－0, 9－3）3 日女体短大
日体大 14（9－5, 5－3）8 東女体大
日体大 10（5－1, 5－1）2 東女体大

【順位】 ①日体大4戦4勝（勝ち点2）②東女体大2勝2敗（勝ち点1）①日女体短大4戦4敗（勝ち点0）

桃山学院大二部で再出発

関西学生ハンドボール連盟（久間亨委員長）は12月6日、38年春に同学連から除名されていた桃山学院大の正式復帰を認めると発表した。

この問題は11月20日、桃山大から提出されていた38年春の関学戦ボイコットに関する遺憾の意を表明した復帰願いに基づいて開かれ、同連盟総会（理事会、学連委員会）で出席者の総意を得て決定されたもの。桃山大は本年4月の西日本大会から出場権を得、春のリーグ戦では新加入の形で二部最下位から再出発する。

同志社、堂々の3連勝（通算8回目）

関西学生秋季 関学関大も善戦

関西学生秋季リーグ戦は10月24日開幕、京都市体育館、大阪府立体育会館、関大、京都学芸大などで熱戦を展開した。その結果、終盤にはいって三強の星のつぶし合いとなり、同大が3シーズン連続、通算8回目の優勝を飾った。なお同大は秋季リーグに4連勝である。

▽一部

同大 31（17－8, 14－5）13 阪大
京大 20（7－9, 13－9）18 甲南大
関大 35（20－9, 15－3）12 立命大
関学 36（23－6, 13－3）9 大経大
関大 22（15－10, 7－6）16 京大
甲南大 21（13－6, 8－11）17 立命大
同大 27（15－1, 12－4）5 大経大
関学 33（14－11, 19－8）19 阪大
関大 28（15－12, 13－8）20 阪大
関学 26（16－9, 10－3）12 京大
大経大 19（9－7, 10－9）16 甲南大
同大 28（13－7, 15－7）14 立命大
関学 33（16－8, 17－9）17 立命大
関大 29（17－5, 12－7）12 大経大
甲南大 26（12－9, 14－5）14 阪大
同大 32（15－10, 17－9）19 京大
京大 22（12－8, 10－9）17 阪大
同大 27（18－6, 9－7）13 甲南大
関学 23（12－6, 11－8）14 関大
立命大 24（13－11, 11－9）20 大経大
関学 25（16－6, 9－3）9 甲南大
同大 26（14－12, 12－7）19 関大
京大 23（2－1, 0－0 : 10－11, 11－10）22 大経大
立命大 30（19－10, 11－12）22 阪大
大経大 18（10－7, 8－3）10 阪大
京大 27（11－7, 16－8）15 立命大
関大 20（11－8, 9－9）17 甲南大
同大 19（9－6, 10－6）12 関学

△一、二部入れ替え戦

（一部）阪大 18（10－6, 8－8）14 大府大（二部）

関西学生秋季リーグ成績（一部）

	同	学	関	京	甲	立	経	阪	勝	負
①同大	×	○	○	○	○	○	○	○	7	0
②関学	●	×	○	○	○	○	○	○	6	1
③関大	●	●	×	○	○	○	○	○	5	2
④京大	●	●	●	×	○	○	○	○	4	3
⑤甲南	●	●	●	●	×	○	●	○	2	5
⑤立命	●	●	●	●	●	×	○	○	2	5
⑤経大	●	●	●	●	○	●	×	○	2	5
⑧阪大	●	●	●	●	●	●	●	×	0	7

○…同大、関学、関大の三強が前半戦を危な気なく乗り切って勝ち進み、興味は終盤三日間に集めら

れた。
まず、関学―関大戦で関大が一歩後退。関大は同大にも敗れて、優勝は最終戦にかけられるという文字どおり関西学生今年のフィナーレを飾るにふさわしい場面となった。今シーズン両者の対戦は西日本学生（四月）が関学、関西学生春季（五月）が同大と一勝一敗。その意味でも〝決勝〟だった。
試合はエキサイトしたが、時間の経過とともに同大がコンビネーションを生かした攻撃力で得点をあげ、守っても関学のオフェンスに対して研究の成果を表わして試合の主導権を渡さず、攻守にうまみを見せて制勝した。
○…数年前までは、「秋の関学」といわれたほど秋になると関学が強かった。同大はこれで昭和36年以来秋季リーグに4連勝、完全に関学のお株を奪った。また、同大の春秋優勝は部創立以来初めてのことである。奥本主将（GK）を中心によくまとまり、鳥井、石井、影山のベテランが攻防両面の勝負どころでチームを盛り立てていたのが勝因であろう。
○…二位になったとはいえ、関学も名門らしい試合ぶりでいちじのスランプから完全に立ち直った。来季は同大の連勝の前に大きく立ちはだかることだろう。関大は春に続き、もう一つカベをつき破る力に欠けた。せり合うともろい弱点は、悪い伝統になってしまいそうだ。阪大を除くその他の四校はいずれも安定した力に欠ける。ほとんどが春の試合ぶりと変わりばえがしないのもいただけなかった。Aクラスの充実は、リーグの躍進にもつながるだけに各校の奮起をうながしたい。ごく最近でも京大、甲南大、神大（今季二部）などがたびたび旋風を起し、優勝争いに波乱を呼んだものだ。少なくとも今年は、そうした気力に欠け、再び三強だけのリーグ戦になってしまいそうな気配があるのは残念だ。

× ×

中京大、10シーズン連続優勝

中四国は広島商大勝つ

東海学生秋季リーグ戦は11月7、8日の2日間、中京大興正寺球技場に一部5、二部6校が参加して開かれた。一部は中京大が今季も圧倒的な強さをみせて優勝、昭和35年春季いらいに10シーズン連続優勝（通算11回目）した。二部は南山大が初優勝。

▽一部

中京大 20（10−0、10−4）4 名工大
岐阜大 20（9−7、11−6）13 愛知学大
中京大 23（14−3、9−9）12 名大
愛知学大 11（4−5、7−5）10 名大
名大 14（8−1、6−3）4 名工大
岐阜大 15（7−5、8−8）13 名工大
中京大 18（8−3、10−4）7 愛知学大
岐阜大 14（6−4、8−8）12 名大
名工大 13（4−6、9−4）10 愛知学大
中京大 27（16−4、11−4）8 岐阜大

【順位】①中京大4戦全勝 ②岐阜大3勝1敗 ③名大1勝3敗（得点48） ④愛知学芸大1勝3敗（得点41） ⑤名工大1勝3敗（得点34）

【二部順位】①南山大5戦全勝 ②国立三重大・滋賀大・静岡大3勝2敗 ⑤県立三重大1勝4敗 ⑥愛大0勝5敗（不戦敗）

広島大、善戦及ばず

中四国学生秋季リーグ（第4回）戦は10月31、11月1日の両日山口大球技場に新たに近畿大学（呉工学部）を加えた5校が参加して開かれた。広島商大と広島大の広島勢の優勝争いとなったが、広島商大が広島大の善戦を退け、第1回（昭38春）いらい4シーズン連続優勝した。

山口大 21−12 岡山大
広島大 36−3 近大
広島商大 21−11 山口大
岡山大 26−10 近大
広島商大 23−18 広島大
広島大 18−15 山口大
広島商大 19−12 岡山大
山口大 18−2 近大
広島大 14−4 岡山大
広島商大 棄権 近大

【順位】①広島商大4戦全勝 ②広島大3勝1敗 ③山口大2勝2敗 ④岡山大1勝3敗 ⑤近畿大呉工学部4戦4敗

東北学院大が2連勝

第9回（昭和39年度）東北、北海道学生選手権は北大球技場で行なわれ、東北学院大が2年連続、5回目の優勝を飾った。福島大（前年2位）は不参加。

東北学院 29（14−3、15−5）8 北海道学芸大釧路
北大 16（9−11、7−3）14 東北大
東北学院 23（9−5、14−7）12 北大
東北大 22（12−1、10−5）6 北海道学芸大釧路
東北学院 9（5−3、4−3）6 東北大
北大 14（5−5、9−5）10 北海道学芸大釧路

【順位】①東北学院大3戦全勝 ②北大2勝1敗 ③東北大1勝2敗 ④北海道学芸大学釧路分校3戦全敗

各学連一、二部入れ替え戦

各リーグ秋のリーグ一、二部入れ替え戦の結果は次のとおり。

▽関西（11月19日・大阪府大）

阪大（一部）18（8−8、10−6）14 大阪府大（二部）

▽東海（11月21日・南山大）

名工大（一部）15（5−5、10−7）12 南山大（二部）

西軍、会心の勝利（3年ぶり）

全日本学生東西対抗

第14回全日本学生選抜東西対抗は9月20日午後2時から名古屋市金山体育館で二千の観衆を集めて行なわれた。試合はチームプレーにまさる西軍が三年ぶりに勝ち、対戦成績を7勝7敗のタイにした。室内での大会が行なわれたのは初めて。

西軍　29（14―13、15―10）23　東軍

▽主審　浅野（日体大出）

【東軍】

			得
FP	森田	（芝工大）	2
	江名	（立大）	7
	斎藤	（法大）	2
	池田	（芝工大）	1
	西村	（法大）	4
	北井	（教大）	2
	白根	（芝工大）	0
	杉本	（中京大）	2
	斎藤	（立大）	3
	松本	（立大）	0
GK	山田	（早大）	0
	高橋	（日体大）	0
7MT		（4）	23

【西軍】

点			
8	鳥井	（同志社）	FP
1	森末	（関学）	
2	飯端	（関学）	
1	石井淳	（同志社）	
4	近藤	（関大）	
7	平岩	（関大）	
3	石井大	（関学）	
1	影山	（同志社）	
2	林	（同志社）	
0	福田	（甲南大）	
0	奥本	（同志社）	GK
0	中山	（関学）	
29		（3）	7MT

【交代】▽東軍FP近藤（中京大）▽西軍FP大西（関学）立石（関大）北田（立命館大）

〔評〕開始3分、FTから西軍平岩（関大）のゲットが決まって両軍を通じ初の得点。この大会で西軍が主将権を握るのは久しぶり。七月の全日本学生、八月の全日本で見せた関西勢の善戦が「自信」になっていたようだ。しかも西軍は昨年とメンバーがあまり変らず、リーグ戦を室内で行なっていることなど有利な条件も多かった。先手をとられながらも東軍は森田や、池田の芝浦コンビが江名（立大）に好パスを送って着実に得点、大きなリードを許さず、21分には9―8と逆に差をつけた。西軍も21、22分鳥井、23、26分林と同志社大勢の活躍で再び優位に立ったが、粘る東軍は西村（法大）の連続ゲットなどで1点差として前半を終わった。後半西軍は約6分間得点がなく、この間に東軍はポストプレーの成功から3分15―14と二度目のリードを奪った。西軍は5分をすぎてから再びスピードが出てきた。6分同点としてからは落ち着き、9分から鳥井のあざやかなシュートなどで13分までに連続4点をあげ、試合のペースを握った。東軍にとって惜しいのは、7分森田のノーマークシュートを中山（関学）の美技に止められたことと、10分がら空きのゴールに向かって投げた森田のシュートがそれてしまったことだ。その後しばらく一進一退。18分から4分間に西軍が4点を連取して25―19と引き離し、これで勝負が決まった。西軍は最近二年間の完敗から脱けようと攻守に気力が充実しており、チャンスと見るやスピードのある攻撃で得点をあげ、連続4得点を三回も記録するほどだった。一方東軍は攻撃が悪く、優位に立てる場面も凡失でのがしていた。

練習量は必ずしもじゅうぶんと思えなかった。GKの美技の広酬などあって盛り上がり、いちじほど寄せ集め的なプレーもなかった。特に西軍は各校の特色を生かした選手起用でソツのない試合を見せた。西軍がロングシュートを多用していたことと、攻防両面でボディ・チェックを有効に使っていたのは注目していい。オールスターゲームらしく鳥井、平岩のタイミングのよいシュート、江名、西村の安定した攻撃力、四人のそれそれ違った持ち味、新星飯端（関学）の定評どおりのダイナミックなプレーなど個々の見せ場も多かった。また出場したほとんどの選手がヨーロッパ・スタイルのテクニックを身につけており、学生界の消化力の早さに改めて驚ろかされた。【杉山　茂＝NHK運動部】

芝浦工大が4連勝

全日本学生王座決定戦

第17回全日本学生ハンドボール王座決定戦、東の芝浦工大―西の同志社大戦は昨年12月6日大阪府立体育会館で行なわれた。

芝浦工大はたくましい動きで前半19分までに9―0と一方的にリード。そのまま同大の反撃を押え24―12の大差で優勝、4連勝、通算7回目の王座についた。

芝浦工大　24（10―5、14―7）12　同志社大

芝浦が前半19分まで9―0と引き離した。思いがけないようなスタードだが、守備力の差は大きかった。ガンガン鋭く当たる芝浦のバックに同大はとまどい、長身飯田のロングシュートもきかなかった。フットワーク、ボールに食い下がる迫力、すべて差があった。同大は22分から連続4つの7MTをとり、後半終わりごろ攻守とも立ち直った。芝浦はゴール前での反則をおそれ、後半10分ごろいちじは4点差までつめられたが、16分から25分の9分間に池田のリードから近藤、森田、近森らがたくみなシュートで連続8点を一方的に奪った。同大は芝浦のような鋭いつぶしを関西でじゅうぶん経験していなかったのがこの大差の原因。

（同大）

			得
FP	鳥井		6
	石井		0
	斎藤		0
	飯田		2
	林		0
	影山		4
	川井		0
	佐藤		0
	江村		0
	林谷		0
GK	奥本		0
7MT		（5）	12

（芝浦）

得			
7	近藤		FP
6	森田		
0	白根		
3	池田		
1	木田		
0	永富		
1	青山		
5	近森		
1	山田		
0	山村		
0	渡辺		GK
24		（7）	7MT

連載 第10回

ハンドボール球史

——関東学生リーグ・発展期へ——

関東学生リーグ戦後編 ④

▽昭和26年春季＝一、二部制復活（二部に東大、芝浦工大参加）

法大 8—6 慶大
立大 9—7 教大
日体大 11—7 早大
早大 9—6 慶大
立大 6—2 慶大
教大 14—13 早大
日体大 11—7 法大
法大 8—3 早大
慶大 9—5 日体大
慶大 6—5 教大

なお立大—早大、立大—法大、立大—日体大、日体大—教大、教大—法大の各スコアが不明です。ご存じの方がありましたら、編集部「球史」係までご一報ください。

【順位】①立大5戦全勝（1年ぶり2回目）②日体大3勝2敗③慶大・法大・教大2勝3敗⑥早大1勝4敗

【二部順位】①明大 ②中大

▽入れ替え戦 早大記録不明明大

▽昭和26年秋季

教大 16—10 法大
日体大 9—4 慶大
立大 11—5 早大
早大 7—5 日体大
立大 11—8 法大
慶大 5—2 早大
立大 2—1 慶大
教大 1—0 日体大
立大 10—5 教大
日体大 10—3 法大
教大 11—6 早大
慶大 7—5 法大
立大 10—9 日体大
慶大 5—4 教大
早大 7—5 法大

【順位】①立大5戦全勝（2連勝・3回目）②慶大3勝2敗③教大3勝2敗（二位決定戦慶大10—2教大）④日体大・早大2勝3敗⑥法大5戦全敗

【二部順位】①明大4戦全勝（2回目）②中大③茨城大④東大・芝浦工大

▽入れ替え戦 明大8—7法大

▼昭和27年春季

立大 10—3 慶大
日体大 14—7 教大
明大 5—4 早大
慶大 6—3 明大
早大 11—6 慶大
明大 8—7 日体大
立大 7—6 教大
日体大 8—4 早大
早大 7—3 立大
日体大 11—10 慶大
明大 14—12 教大
立大 5（分）5 明大
早大 12—6 教大
日体大 10—6 立大
教大 6—5 慶大

【順位】①日体大4勝1敗（5シーズンぶり9回目）②明大3勝1敗1分③早大3勝2敗④立大2勝2敗1分⑤教大1勝4敗⑥慶大1勝4敗（最下位決定戦教大7—5慶大）

【二部】①法大（初優勝）

▽入れ替え戦 慶大9—6法大

▼昭和27年秋季

立大 15—10 早大
教大 10—7 明大
日体大 12—11 慶大
慶大 9—6 明大
日体大 11—7 立大
教大 8—6 早大
日体大 14—10 教大
立大 8—7 慶大
早大 9—5 明大
慶大 13—5 教大
日体大 15—6 早大
立大 10—6 明大
立大 17—8 教大
日体大 16—8 明大
慶大 10—3 早大

【順位】①日体大5戦全勝（2連勝・10回目）②立大4勝1敗③慶大3勝2敗④教大2勝3敗⑤早大1勝4敗⑥明大5戦5敗

【二部】①中大（初優勝）

▽入れ替え戦 明大19—2中大

▼昭和28年春季

教大 11—8 慶大
日体大 11—6 教大
日体大 13—9 明大
立大 9—5 明大
早大 8—5 立大
慶大 9—8 日体大
教大 14—13 立大

早大	14－7	教大	
慶大	8－5	明大	
教大	11－8	明大	
早大	11－8	日体大	
日体大	12－11	立大	
早大	12－10	明大	
立大	11－7	慶大	
早大	16－6	慶大	

【順位】①早大5戦全勝（5シーズンぶり・8回目）②日体大、教大3勝2敗④立大、慶大2勝3敗⑥明大5戦5敗

【二部】①法大（2回目）

▽入れ替え戦 法大9－7明大

▼昭和28年秋季

立大	8－7	教大
法大	8－5	慶大
日体大	15－7	慶大
立大	11－6	慶大
早大	13－7	法大
日体大	17－9	法大
法大	11－9	教大
早大	11－8	教大
日体大	10－9	立大
法大	10－7	立大
教大	11－9	慶大
日体大	11－9	教大
早大	12－9	立大
早大	6－4	日体大
早大	7－6	慶大

【順位】①早大5戦5勝（2連勝・9回目）②日体大4勝1敗③法大3勝2敗④立大2勝3敗⑤教大1勝4敗⑥慶大5戦5敗

【二部】①明大（3回目）

▽入れ替え戦 慶大12－5明大

聖火リレー走者一覧

第18回オリンピック東京大会の聖火リレー走者にハンドボール選手が多数選ばれた。

▽愛知 中村守雄（一宮工高）杉本修平（一宮市立南部中）横井立明（一宮市立中部中）大島千恵（一宮市立南部中）寺下吉光（名市工高）鈴木貫市（新城高）後藤裕司、加藤友弘、永藤浩司（以上時習館高）高橋公比古（桜台高）河辺道夫（豊橋建設）山本勝信（愛知学芸大）鈴木保之、（家業）高瀬勝美（電々公社）佐原勝（中部ガス）鈴木啓史、山本孝（以上豊橋商高）二村直広、武内三二（以上豊橋東高）高橋一之、白井義郎（以上豊丘高）山崎清、竹内弘門、倉地典宣、近藤浩（以上豊橋工高）荻本幸生（豊橋市立豊岡中）見郷孝義（豊橋市立中部中）今泉渉（豊橋市立豊城中）山田竪五（豊橋市立南部中）朝倉幸美（豊橋市立北部中）田中成治、杉浦貞充（以上豊丘高）池田知之（豊橋工高）本多健三（国府高）

▽山口 山口保夫、森岡健、深田満夫（以上宇部工高）河合誠、増田雅夫、大田稔（以上山口大）箱崎健司（下松工高）明石英利、野村和範、道山信幸、伊ヶ崎繁生、加藤洋、野村要、長広勲、田中敬三、住田宗士、河村徹、中野正二、藤井みち子、原田マサエ、清水祥子、柴田由美子、鈴木涼子、近森孝枝、宇多洋子、石田玲子、山本文枝、高杉あつ子、杉本博子（以上徳山高）岩岡徳治（岩国工高）金子佳穂（岩国商高）豊田徹之（岩国高）福田漣（下関幡生工高）後幸一郎（下関西高）

▽静岡 亀山純子（静岡城北ク）落合トシ子（静岡城北高）

▽山梨 渡辺賢助、大木寿雄（以上山梨園芸高）三井秀夫、正夫（以上塩山商高）上野忠利（大月短大付高）横瀬良成（都留高）都倉義睛（谷村高）

▽富山 姿善元（氷見高）

▽宮崎 明利道高（都城泉ケ丘高）

▽香川 川口俊夫（高松一高）田中博文（坂出工高）

▽北海道 中野恵美、黒丸和子（遺愛女高）

▽滋賀 北野菅枝（八幡商高）

▽和歌山 吉野伸雄（県立和歌山商高）

第11回全日本総合室内選手権

全立大初優勝

第11回全日本総合室内ハンドボール選手権（39年12月16日―20日、東京体育館、駒沢体育館）

▽男子決勝リーグ

大崎電気（埼玉）	28（15－6、13－3）9	同志社大（京都）	
全立大（東京）	23（15－7、8－8）15	日体大ク（東京）	
全立大（東京・推薦）	21（10－8、11－5）13	同志社大（京都）	
大崎電気（埼玉・推薦）	15（5－7、10－6）13	日体大ク（東京・推薦）	
同志社大（京都）	22（14－9、8－8）17	日体大ク（東京・推薦）	
全立大（東京・推薦）	21（13－9、8－7）16	大崎電気（埼玉・推薦）	

【男子順位】①全立大3戦全勝②大崎電気2勝1敗③同大1勝2敗④日体大ク3敗

△女子決勝リーグ

田村紡（三重）	6（2－3、4－1）4	大洋デパート（熊本）
愛知紡（愛知）	4（2－1、2－2）3	レナウン東京（東京）
田村紡（三重）	3（1－2、2－2）2	愛知紡（愛知・推薦）
レナウン工業（東京・推薦）	6（4－3、2－2）5	大洋デパート（熊本・推薦）
大洋デパート（熊本・推薦）	10（5－5、5－2）7	愛知紡（愛知・推薦）
田村紡（三重）	13（8－5、5－3）8	レナウン工業（東京・推薦）

くわしい記録は20号に掲載。

地方球界の歩み

北から……南から……⑥

静岡県（2）

戦前すでに中学界に深く根をおろしたことは前号で紹介したが、そうした実績が戦後の復興と発展にどんなに役立ったことだろう。終戦翌年の六月には早くも県中学選手権が富士市で開かれている。他県の多くは復活の見通しがつき、第一回国体にようやく目標を見出した時期である。岡山などともに関係者が「わが県球史は戦前からだ」と胸を張るのも無理はない。前述の県中学大会で優勝した沼津中はそれ以後数年にわたって県制覇を続け、22、23年には東日本中学大会で準優勝を飾った。

競技面での復興、発展とともに県協会の本格的発足を望む声と機運が熟し、昭和23年県スポーツ祭開催を機会に正式設立をみた。設立に当たっては藤田純男氏が並々ならぬ努力を傾け、発足と同時に初代理事長になった。また初代会長には芝野清一氏を推薦し、以後会長は岩山義一氏（32年—36年）、斎藤敏之氏（36年—現職）と変わり、理事長も藤田氏が県高体連理事長に就任したので、片瀬喜代次（26年—32年）、平岩魁（32年—36年）、片瀬（二度目、36年—現在）氏も四代にわたっている。県協会の結束は設立当初から堅かったが、26年1月、第6回全日本選抜東西対抗の開催を引き受けてから一層強化された。時の東西対抗は一般男女、高校男女の四部門で合計八チームが参加した。東西対抗の前年、常勝沼津東高（旧制沼津中）が富士高に敗れ、県球界は大きな変動があった。26年の県スポーツ祭でその富士高が清水商に敗れた。一方女子も25年デビューした静岡城北高がその年の国体予選で沼津女商高を破る金星をあげた。東西対抗を境いに期せずして、高校界の中心勢力が、男女とも沼津地区から県中部へと移行されたのである。

そこへ拍車をかけるように第7回東西対抗の女子で静岡城北高が岡山落合高を5—4で破って初の全国優勝をとげた。さらに31年の第8回全日本総合、32年の第12回国体がいずれも清水市で開かれることに決まった。この三つのできごとは県球界における静岡、清水両市の占める位置を確立したものとして注目される。清水市では高校野球よりも高校ハンドボールの方に人気があるといわれたくらい。事実31年と32年に開かれた二つの全国大会は史上特筆すべきものであった。しかも31年の大会では前号で紹介した清水商高が日体大を破る金星があり、女子では全静岡城北高が準優勝。32年の国体では高校女子で静岡城北高が初優勝、同男子で清水商高が準決勝進出（4位）、一般女子でも城北クが二位という成績をあげたのだから大したもの。話が前後するが、清水商高も静岡城北高も、初登場のときから〝全国的強豪〟であった。これは県内レベルの高さを示すもので自慢してよいだろう。静岡城北高は前述の東西対抗優勝を手はじめに第4回（28年）全国高校2位、第10回（30年）国体2位、第12回（32年）国体優勝と毎シーズン全国最上位に名を連ねた。OGを加えた全静岡城北高としては28、29年の全日本総合に連続優勝を飾っている。

このチームを手がけているのは創立当初の藤田純男氏から、望井氏へと代わっているが、一貫してスパルタ式トレーニングで鍛えている。特に望井氏の『人の遊ぶヒマに練習』という主義は選手たちにも徹底しており、その根性を37、38年とに発揮して全国高校二連勝したのである。

今シーズンは国体に優勝（七年ぶり2回目）しながら全国高校決勝戦で惜敗し、ダブル・タイトルはならなかった。全盛の実業団勢を倒すのは同校以外にないとよくいわれる。それも平生の猛練習と精進があるからだ。一昨年の全日本室内で最有力候補の大洋デパート（熊本）を破り、決勝で愛知紡と大接戦した記憶は新しい。一方清水商高は創立当初から片瀬喜代次が面倒を見ており、気合いのはいった猛練習は有名である。26、27年と全国高校で連続二位、27年桐生高（群馬）との決勝はいまだに語り草にされるほどの好勝負だった。33年第9回全国高校で宿願の初優勝を飾り『キョショウ』の名は全国に知れ渡った。優勝までに時日がかかったのは桜台高（愛知）の黄金時代にぶつかったからで、桜台高の6連勝をはばんで初優勝を飾ったのだからほめられていい。この清水商高の打倒を県内でねらっていたのは富士高、清水東高、静岡農高、それに巻き返し

をねらう沼津勢などで、特に清水東高の対抗意識はすさまじいものがあった。現役はもとより、OBの清商クと橘ク（東高OB）との対戦までエキサイトするほど。そうした意欲が実って清水東高は37年の第13回全国高校で堂々とベスト8に名を連ねている。

こう眺めてくると静岡球史のほとんどは高校界の足跡であり、さらには男子の沼津、清水。女子の静岡（城北）と特定化されているのに気がつく。もちろん一般への普及も静岡国体を前にした27年ごろから積極的に行なわれていたのだが、静岡大、近年の静岡日野自動車以外あまりパッとした成果はなかった。これは前述の清水の両クラブ、女子では静岡城北クへの依存度が強いためである。衰退するクラブ界にあっていぜん精彩ある活動を示す清商クの存在は貴重。その意味で最近気賀高、吉原高など高校界に新進校の台頭してきたのは朗報である。

さて、最後に静岡球界で見のがせないのが「愛知」への対抗意識だ。東海ブロックにあって両県の対決はすごい。発端は終戦直後、国体東海予選で沼津中が愛知一中を破ったころにさかのぼろう。以後、清水商―桜台高、清水商―中京商、静岡城北高―稲沢高、静岡城北高―半田高、清商ク―桜丘会、橘ク―桜丘会、静岡城北ク―愛知紡などと各分野でせり合いが続いている。東海地区での完全制覇を一つのステップとして、全国大会完勝の大目標を達成しようとする意気込み。国内最古参の球歴に安住することなく、いつまでも若々しく、発らつとしているのには敬意を表したい。

地方組織完全化近し

本部協会の宿願とする地方支部全国完全組織化は、39年に島根協会と宮崎協会が発足したことでさらに前進した。40年2月1日現在の支部（県協会）所在地次のとおり。

▽本　部（東京都渋谷区神南町25　岸記念体育館内）
▽北海道（函館市東雲町九　函館市教育委員会内）
▽青　森（青森市大字造道字浪打一〇〇　県立青森商業高校内）
▽秋　田（秋田市手形中野台　県立秋田高校内）
▽岩　手（盛岡市上名須川　市立仁王小学校内）
▽宮　城（仙台市川内　東北大学教養学部体育研究室内）
▽山　形（寒河江市六供町　県立寒河江高校内）
▽福　島（郡山市方八丁32　熊田栄一氏方）
▽群　馬（富岡市七日市一五〇　県立富岡高校内）
▽栃　木（足利市本城一の一六二九　県立足利高校内）
▽茨　城（水戸市渡里町　茨城大学体育研究室内）
▽埼　玉（浦和市元町一の二五五　浦和市立高校内）
▽千　葉（千葉市弥生町一　千葉大学文理学部体育科内）
▽東　京（東京都品川区五反田一の二六三　大崎電気工業内）
▽神奈川（横浜市南区三春台四　関東学院内）
▽長　野（上田市新参町　上田市教育委員会内）
▽新　潟（柏崎市本町五　佐渡五旅館内）
▽山　梨（山梨県東八代郡石和町中川　県立山梨園芸高校内）
▽静　岡（清水市入江岡九七五　清水市立商業高校内）
▽岐　阜（岐阜市加納南陽町三　加納高校内）
▽三　重（鈴鹿市白子町　鈴鹿電気通信学園内）
▽愛　知（名古屋市中村区烏森　松蔭高校内）
▽福　井（福井市御幸町二の一　県立高志高校内）
▽石　川（金沢市田井町　兼六中学校内）
▽富　山（小矢部市新西　富山県販購連養鶏センター気付）
▽大　阪（大阪市阿倍野区昭和町　桃山学院大学内）
▽滋　賀（彦根市金亀町　県立彦根東高校内）
▽京　都（京都市北区小松原南町一〇　県立洛星高校内）
▽奈　良（奈良市高樋町四九三　森田正英氏方）
▽和歌山（和歌山市湊　県立和歌山商業高校）
▽兵　庫（明石市大蔵町八の三四二五、増岡方）
▽岡　山（岡山県真庭郡落合町　県立落合高校内）
▽広　島（広島市尾長町三本松　川上病院内）
▽島　根（松江市母衣町　松江市立女子高校内）
▽鳥　取（境港市上道町一六〇〇　境港市役所内）
▽山　口（下松市　下松市教育委員会内）
▽香　川（高松市桜町　県立高松一高内）
▽愛　媛（松山市大字石手五〇九　越智武氏方）
▽高　知（高知市鴨部六六八　県立高知西高内）
▽福　岡（福岡市香椎町　県立香椎高校内）
▽大　分（大分県東国東郡国東町　県立国東高校内）
▽長　崎（佐世保市高砂町四八　長崎市教育委員会保健体育課内）
▽宮　崎（都城市妻ケ丘町第二七街区第一五号　都城泉ケ丘高校）
▽熊　本（熊本市黒髪町坪井　県立済々黌高校内）
▽鹿児島（鹿児島市草牟田町三九一八　県立鹿児島工業高校内）
▽協会結成準備中（佐賀県、徳島県）

高木君（岐山高）死亡　試合中の衝突が原因

11月7日、岐阜市加納高で行なわれた岐阜県種目別選手権の高校男子一回戦、岐山高対岐阜西高戦に出場した岐山高の高木千尋君（一七）は、試合中相手選手と衝突して腹部を強打。ただちに病院で手当を受けたが、六日後の11月13日内臓破裂で死亡した。高木君の霊に謹しんで哀悼の意を表したい。

○東京都協会告知板

常任理事会議事録

日　時　昭和40年1月18日（月）
　午後5時30分

会　場　大崎電気工業株式会社
　会議室

出席者　渡辺　外山　吉田　清田
　黒川　宮田　安藤純　岡
　村　鴬尾

議　　事

1、渡辺会長の抱負
昭和40年は日中交流、日ソ交流、西ドイツチーム来日（男女）、女子の世界選手権大会（西ドイツ）と国際試合が多い。日本協会はもちろんのこと、東京都協会も大いに力を合わせてこれらの国際試合を遂行したい。それには都協会役員の一層の努力を希望しておく。日本のハンドボール界が一大飛躍をとげるためには、東京都協会がさらに強力な組織を構成しなければならない。ことしから日本協会と東京都協会の合同会議を持ち、互いに意見を交換し合つていきたい。

また私はことしも実業団チームの育成に努力する。40年度には三菱鉛筆女子チームが誕生することが決まり、41年度にも実業団チームが生れる見通しがついた。私としては将来東京都実業団リーグ戦を開きたいと思つている。

2、式場会長お見舞いの件
日本協会の式場隆三会長は胃カイヨウのため昨年12月順天堂病院に入院。東京都協会から近く渡辺会長、外山理事長が正式にお見舞いに行くことを決めた。

3、40年度の事業日程について
A都民大会　5月1、2、3、5、日　駒沢
◎B全日本総合都予選　9月4、5日
C国体都予選　9月18、19日
◎D国体関東予選
E東京都選手権大会　11月20～23日　都体育館
◎F全日本総合室内都予選
G全日本総合室内選手権大会　12月15～19日　都体育館
H都高体連大会
I都中体連大会
（注）◎印は日本協会の正式日程、大会要項が決まりしだい、あらためて常任理事会で検討する。

4、関東ブロック（山梨を含む）の代表者会議を定期的に開き、意見の交換をやりたい。

5、次回の常任理事会は2月22日（月）午後5時30分から開く。

6、その他（日本協会への要望事項）
A昨年の第11回全日本総合室内選手権大会の推薦チームの資格基準が明確でなかつた。ことしの第12回大会から推薦基準をはつきりしてほしい。

B日本協会に登録されている審判員の年間試合消化の基準を設けた方がいい。たとえばA級審判員は1年間に全日本クラスの大会の審判を3回義務づけてやらせ、質の向上をはかる。義務づけられた回数に達しないときは、B級に降等させる。

C実業団チームの増加にともない、これらのチームをできるだけ多く全日本クラスの大会に出場させたい。とくに東京には大学チームも多いので、夏の全日本総合選手権大会には東京都代表（東京都予選第1位チーム）を無条件で出場資格を与え、第2位チームを関東予選に出場させる方法をとつてほしい。

全立大初優勝
女子はレナウン優勝

第2回東京都ハンドボール選手権大会は39年11月21日から23日まで東京・駒沢屋内球技場、駒沢体育館で行なわれた。

「中学男子オープン」
富士見丘中　15－11　深川四中

「中学女子オープン」
横山中　14－6　学芸大付小金井中

「高校男子」
明星高　11－9　神代高

「高校女子」
菊華高　10－4　桜水商

「一般男子」
▽一回戦
法友ク　47－11　若木ク
早大　29－12　武蔵工大
日体大　42－8　洗足ク
立大　15－13　日大
芝浦ク　46－9　明正ク
中大　29－16　深沢ク
日本鋼管ク　22－15　早大学院OB
滴水会　22－13　東大

▽二回戦
法友ク　不戦勝　芝浦工大
千代田印刷機　17－14　早大
教大　19－15　日体大
大崎電気　26－9　立大
全立大　25－14　芝浦ク
法大　27－20　中大
明大　24－20　日本鋼管ク
日体大ク　28－16　滴水会

▽準々決勝
千代田印刷機　17－15　法友ク
大崎電気　22－18　教大
全立大　34－14　法大
日体大ク　35－16　明大

△準決勝
大崎電気　18－10　千代田印刷機
全立大　23－12　日体大ク

▽決勝
全立大　19（10－7、9－9）16　大崎電気

「女子リーグ」
大崎電気　9－5　東京重機
レナウン工業　26－7　東女体大
レナウン工業　9－4　東京重機
大崎電気　19－4　東女体大
東京重機　14－4　東女体大
レナウン工業　8－6　大崎電気

【順位】①レナウン工業　②大崎電気　③東京重機　④東女体大

大会終了後、優秀選手（ベスト7）選考委員会を開き、次の選手を表彰した。

「男子」
▽GK　福本　弘（大崎電気）
▽FP　竹野奉昭（大崎電気）
北村尚英（大崎電気）
安達精太（全立大）
中根敏男（全立大）
北井晴次（教大）
藤原侑（日体大ク）

「女子」
▽GK　山田帆浪（レナウン）
▽FP　渡辺征子（レナウン）
太田美紀子（レナウン）
宇井敬子（大崎電気）
鈴木功子（大崎電気）
田村うた子（大崎電気）
斎藤光子（東京重機）

地方だより

早大・慶大に6連勝

▽第12回早大対慶大定期戦（9月12日、早大記念会堂）

「現役」

早大 20（8—8、12—11）19 慶大

早大の6連勝、通算7回目。

「OB」

稲門 25—24 三田

「高校」

早大学院 24—14 慶応

▽第13回近畿中学大会（9月6、12日、大阪豊中五中）

「男子1回戦」

浜の宮（兵庫）17—3 八幡（滋賀）

「準決勝」

洛星（京都）16—3 東大寺学園（奈良）

豊中五中（大阪）19—5 浜の宮

「決勝」

豊中五中 15—13 洛星

「女子1回戦」

秦荘（滋賀）9—4 生駒（奈良）

岩出（和歌山）11—1 八条（京都）

「準決勝」

大谷（大阪）8—6 秦荘

湊（兵庫）21—7 岩出

「決勝」

湊 13—12 大谷

▽第7回国立八大学体育大会（7月20日、京大）

「7—8位決定」

名大 12—9 北大

「5—6位決定」

九大 17—15 東北大

「3—4位決定」

神大 15—13 阪大

「1—2位決定」

京大 28—11 東大

▽第15回中国高校、第9回中国一般男子選手権大会（7月22日、倉敷青陵高、倉敷東中）

「高校男子準々決勝」

岩国工 19—13 山陽

幡生工 15—11 広島

宇部工 16—14 倉敷工

修道 12—10 徳山

「準決勝」

修道 12—9 宇部工

岩国工 16—11 幡生工

「決勝」

岩国工 12—7 修道

「女子準々決勝」

進徳 16—2 津山商

山陽女 21—4 松江女

井原 18—1 山口中央

徳山 23—5 落合

「準決勝」

山陽女 13—3 井原

徳山 9—4 進徳

「決勝」

徳山 7—4 山陽女

「一般男子準決勝」

広島商大 16—13 三井石油

全広商大 27—14 天城OB

山口大 23—15 岡山大

三菱レイヨン 23—14 武田薬品

「準決勝」

三菱レイヨン 20—17 広島商大

全広商大 24—10 山口大

「決勝」

全広商大 18—9 三菱レイヨン

徳山勢が活躍

▽山口県民体育大会（9月26、27日山口市）

「高校女子準決勝」

徳山 28—6 岩国

山口中央 7—6 岩国女

「決勝」

徳山 17—4 山口中央

「高校男子準決勝」

徳山 10—8 幡生工

岩国工 12—10 宇部工

「決勝」

徳山 16—12 岩国工

「一般女子決勝」

徳山ク 10—4 山口中央高OGク

▽一般男子準決勝

山口教員団 17—15 武田薬品

下関ク 15—10 三井石油化学

「決勝」

下関ク 12—9 山口教育団

▽熊本県高校選手権大会（9月19日、20日、熊本市立高）

「男子準決勝」

熊本市商 18—14 天草

熊本二 18—11 九州学院

「決勝」

熊本二 16—12 熊本市商

「女子準決勝」

菊池農蚕 17—8 天草

熊本市立 11—2 九州女学院

「決勝」

菊池農蚕 16（7—6、4—5、3—0、2—0）11 熊本市立

▽奈良県高校総合体育大会（10月4日、畝傍高）

「男子準決勝」

奈良高B 24—6 畝傍高A

添上高A 16—11 奈良高A

「決勝」

添上A 14—13 奈良B

「女子準決勝」

生駒高B 21—3 郡山

添上 18—0 生駒高A

「決勝」

生駒B 10—3 添上

▽香川県高校総合体育大会（10月4日、高松）

「男子決勝」

坂出工 13（8—6、5—4）10 高松一高

「女子決勝リーグ」

三本松高 7—4 坂出高

観音寺高 14—2 坂出高
三本松高 9—2 観音寺高

▽第10回岡山県選手権（一般男子）は9月27日倉敷市で行なわれ、天城高OB会が岡山大を23—13で破って優勝した。

愛知で実業団リーグ

▽愛知県実業団選手権（リーグ戦）（10月1日、名古屋市金山体育館）

日本碍子 31—13 中部電力
三菱重工 39—19 大同製鋼
日本碍子 22—21 東海製鉄
日本碍子 15—14 タヨシ産業
大同製鋼 27—15 東海製鉄
三菱重工 34—13 中部電力
三菱重工 33—15 タヨシ産業
大同製鋼 23—14 中部電力
東海製鉄 16—15 タヨシ産業
大同製鋼 22—12 日本碍子
タヨシ産業 17—9 中部電力
三菱重工 24—15 東海製鉄
三菱重工 29—12 日本碍子
東海製鉄 27—7 中部電力
大同製鋼 不戦勝 タヨシ産業

（順位）①三菱重工②大同製鋼③日本碍子④東海製鉄⑤タヨシ産業⑥中部電力

イーグルス強し

▽第4回西日本選手権（一般男子）（11月1、2日、大分市城東中学技場）

「1回戦」
大阪イーグルス 20—17 下関ク
岡野バルブ 22—15 大分教員ク
スワロー兵庫 21—20 全熊本

「準決勝」
大阪イーグルス 31（17—5、14—1）6 全大分
スワロー兵庫 24（5—1、4—1、9—7、6—8）17 岡野バルブ

「決勝」
大阪イーグルス 31（17—8、14—3）11 スワロー兵庫

（年次成績）第1回福岡ク、第回大阪ク、第3、4回大阪イーグルス

▽第11回東海高校選手権（9月19、20日清水市）

「男子一回戦」
桜台 32—12 岐阜西
清水商 22—4 四日市商
加納 16—13 気賀
名城大付 23—11 四日市工

「準決勝」
桜台 24—12 清水商
名城大付 17—11 加納

「決勝」
桜台 22（10—9、12—5）14 名城大付

「女子一回戦」
半田 11—7 大垣南
吉原 7—5 津女
加納 10—4 松阪女
静岡城北 13—6 名女商

「準決勝」
半田 9—3 吉原
静岡城北 7—4 加納

「決勝」
静岡城北 10（5—5、5—4）9 半田

男子の桜台高は8回目、女子の静岡城北高は4回目の優勝。

▽第11回北陸三県総合体育大会（9月13日、金沢市）

▽男子リーグ
石川 18—15 福井
富山 12—5 福井
富山 30—18 石川

（順位）①富山②石川③福井

▽女子リーグ
福井 8—6 石川
富山 15—6 石川
富山 8—4 福井

（順位）①富山②福井③石川

中学女子で第三延長

▽8月5日、名古屋市で行なわれた名古屋市中学選手権女子決勝、鳴海中対守山中は5—5のタイスコアから延長。第一延長0—0、第二延長1—1で中学競技では珍しい第三延長に持ち込まれた。互いに前半1点づつをあげ、結局7—7の引き分け、両チーム優勝となった。

初の東北総合開く

▽第1回東北総合室内選手権大会（11月29日宮城県スポーツセンター）

▽男子1回戦
東北学院OB（宮城） 16—8 大曲農高（秋田）

▽同準決勝
盛岡商友会（岩手） 21—16 青森商高（青森）
東北学院大OB 31—8 安積高（福島）

▽同決勝
東北学院大OB 22（8—7、14—5）12 盛岡商友会

▽女子準決勝（参加4チーム）
涌谷高（宮城） 16—5 盛岡二高（岩手）
秋田和洋女高 15—7 梁川高（福島）

▽同決勝
涌谷高 11（8—6、3—2）8 秋田和洋女高

編集後記

○…いつも発行が遅れて申しわけありません。昨年は担当者の私がオリンピックをはじめ自分の仕事に追われてしまい、気にはなっていながら遅々として進まず、心苦しく思っています。編集者のメンバーが少ないので手が回らないのも理由のひとつです。19号は1月31日、20号は3月上旬に目標をおいています。40年度からスタッフを拡充強化？しますのでなんとかできると思います。聞くところによると、40年度から発行回数をふやすとか。そうなればなおさらのこと。よろしく願います。

○…20号といえば、本誌を発行し5年たちました。早いものです。最初のうちは1本立ちできるかどうか多少の不安がありましたが。全国のハンドボール関係者のご協力でここまで成長してきたわけです。本誌のような〝りっぱ〟な機関誌は他のアマスポーツ競技団体にはありません。ハンドボール関係者が自分の仕事の余暇を割いてやっていることです。それだけにじまんしていいと思っています。特に精力的な杉山茂君（NHK名古屋放送局勤務）、全くの部外者である佐内洋治君の編集、割り付け——この2人には心から敬意を表します。

○…ご存じように本年は国際試合が多い。日中、日ソの二つの交流、西ドイツ男女チームの来日、日本女子チームの世界選手権大会出場。ご苦労さん。　（ふぐ）

日本ハンドボール協会編
ハンドボール　第十九号
昭和四十年一月十五日印刷
昭和四十年一月二十日発行
行所　東京都渋谷区神南町二五
日本ハンドボール協会　電話大代表(467)三一一一　振替東京五(　一四八番
編集兼発行人　高嶋洌
定価百三十円
(〒)二十円

